

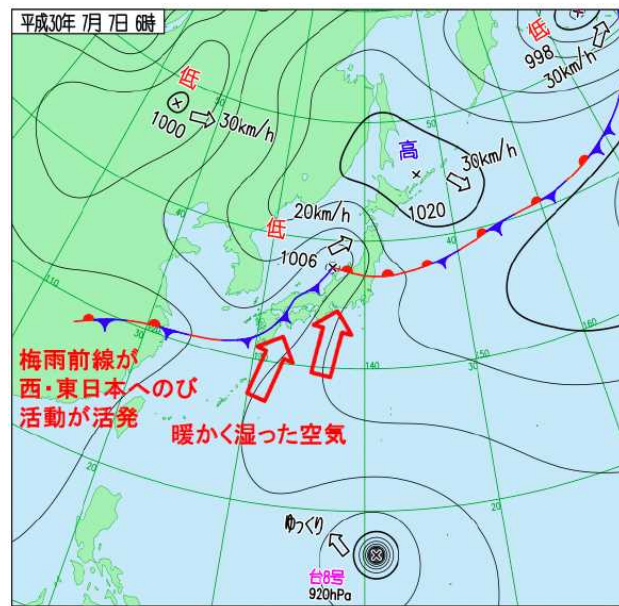
平成30年7月豪雨について

平成30年7月豪雨による降雨(概要)

- 梅雨前線等の影響によって、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、7月の平年の月降水量の4倍となる大雨を記録したところがあった
- 特に長時間の降水量について多くの観測地点で観測史上1位を更新し、24時間降水量は76地点、48時間降水量は124地点、72時間降雨量は122地点で観測史上1位を更新した

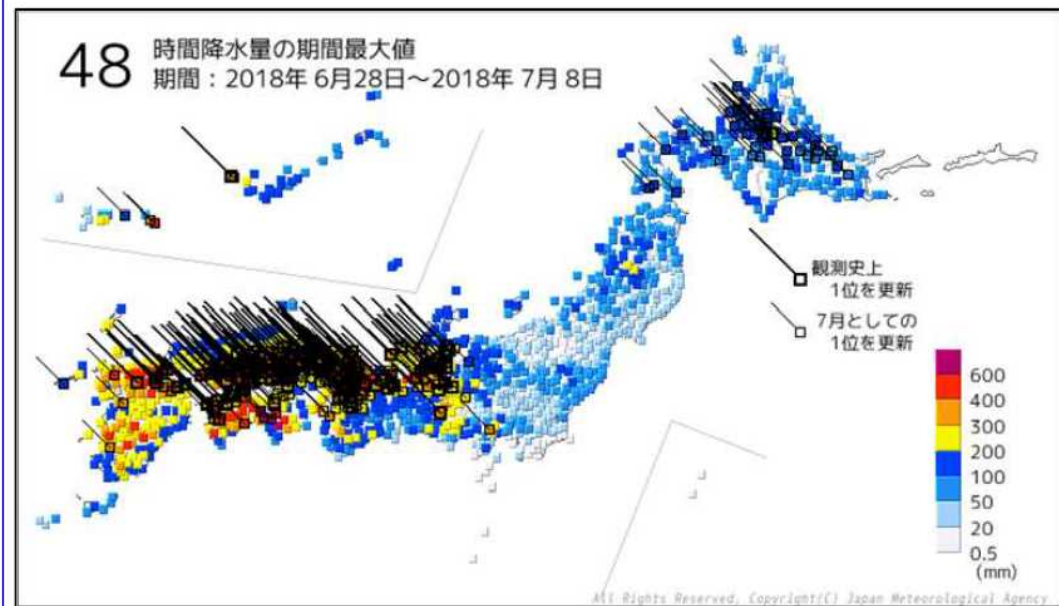
※全国の気象観測所は約1,300箇所

梅雨前線が停滞、台風から湿った空気が供給



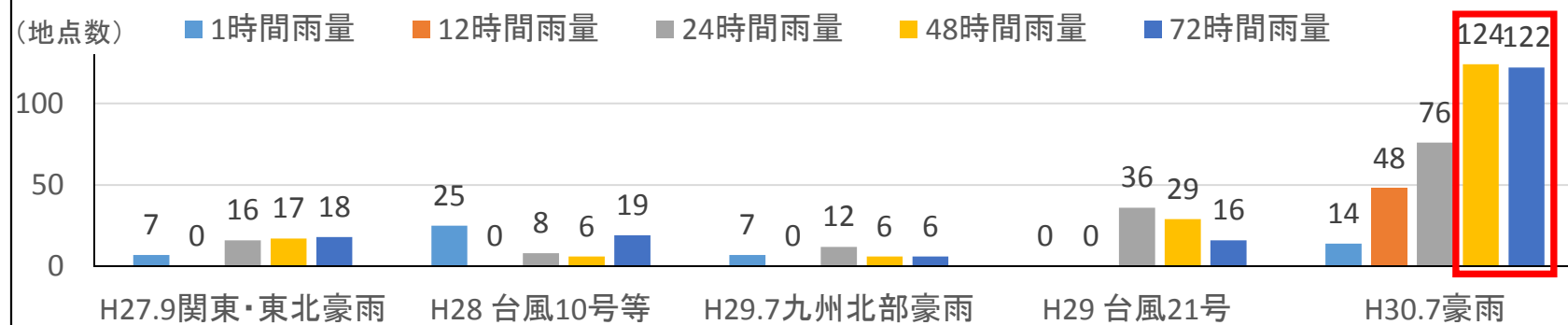
実況天気図(2018年7月7日6時00分時点)

広い範囲で記録的な大雨



48時間降水量の期間最大値(期間2018年6月28日～7月8日)

■観測史上1位を更新した観測地点数



■ 特別警報を発表した府県

都道府県	発表時刻	解除時刻
福岡県	6日 17時10分	7日 8時10分
佐賀県	6日 17時10分	7日 8時10分
長崎県	6日 17時10分	7日 8時10分
岡山県	6日 19時39分	7日 15時10分
広島県	6日 19時40分	7日 10時50分
鳥取県	6日 19時40分	7日 13時10分
兵庫県	6日 22時50分	7日 18時10分
京都府	6日 22時50分	7日 21時20分
岐阜県	7日 12時50分	8日 14時10分
愛媛県	8日 5時50分	8日 14時50分
高知県	8日 5時50分	8日 14時50分

■ 特別警報の警戒対象となった市町村（2市町）

府県名	対象市町村
愛媛県	宇和島市 愛南町

愛媛県の全市町村数：20市町

■ 土砂災害警戒情報を発表した道府県

北海道、神奈川県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、**愛媛県**、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

■ 土砂災害警戒情報の警戒対象となった市町村

府県名	警戒対象地域	警戒対象地域数
愛媛県	松山市 今治市 宇和島市 八幡浜市 新居浜市 西条市 大洲市 伊予市 四国中央市 西予市 東温市 上島町 久万高原町 砥部町 内子町 伊方町 松野町 鬼北町 愛南町	19

愛媛県の全警戒対象地域数：19市町

■ 洪水予報（愛媛県における氾濫危険情報以上の河川）

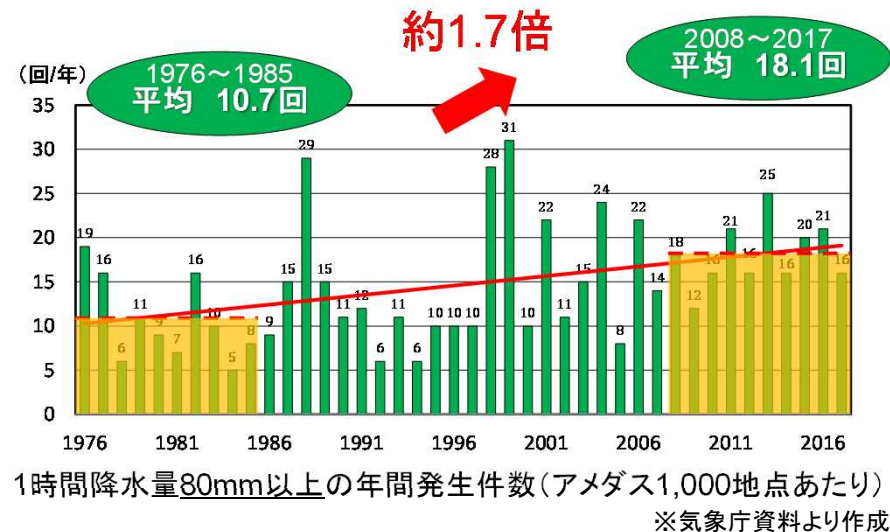
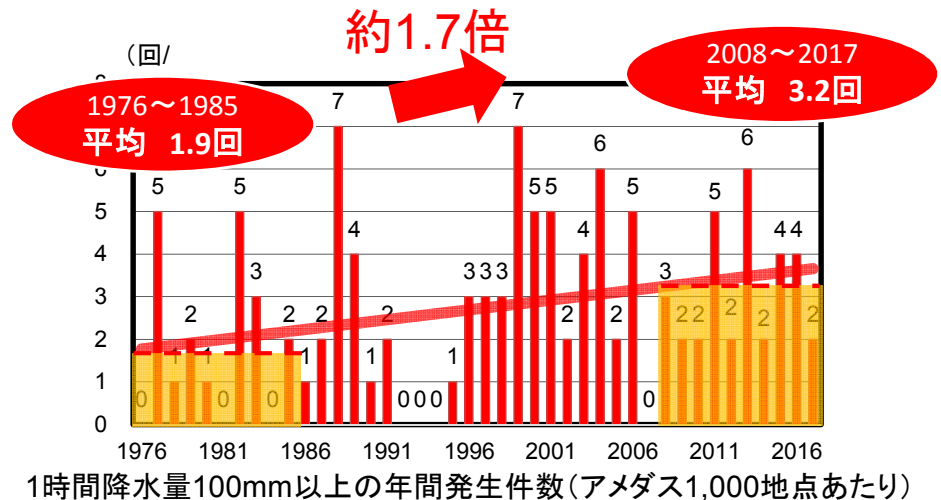
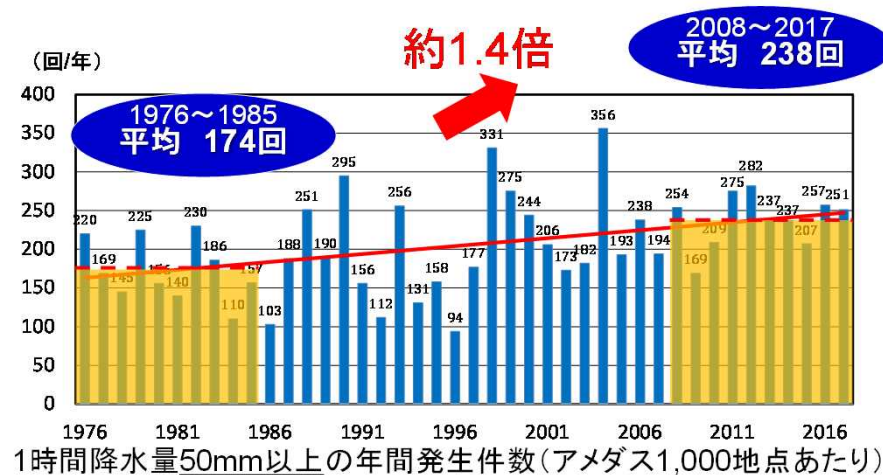
発表日時	洪水予報の標題
2018/7/7 9:20	肱川氾濫発生情報
2018/7/7 8:35	肱川氾濫危険情報

ひじかわ

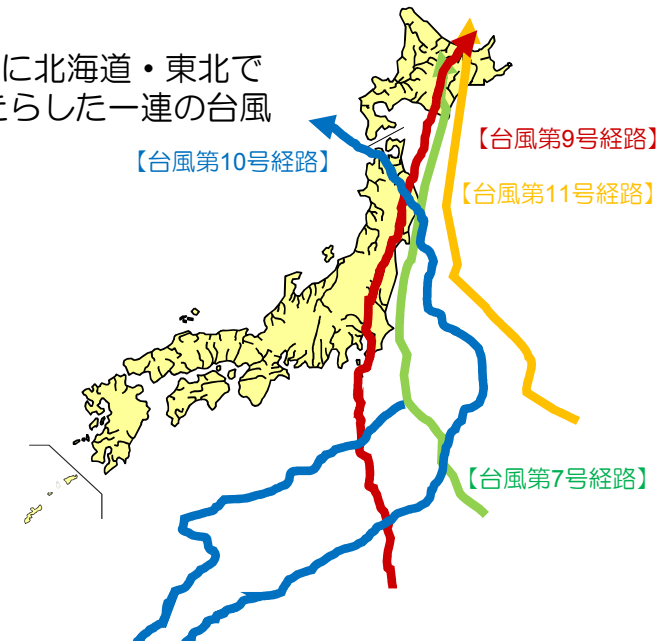
近年、雨の降り方が変化

【参考】

- この30年間で、時間雨量50mmを上回る大雨の発生件数は約1.3倍、時間雨量80mmは約1.7倍、時間雨量100mmは約1.7倍に増加。
- これまで比較的降雨の少なかった北海道・東北でも豪雨が発生。
- 今後も気候変動の影響により、水害の更なる頻発・激甚化が懸念。



平成28年に北海道・東北で被害をもたらした一連の台風



- 温室効果ガスの排出量が最大となるRCP8.5シナリオ(4℃上昇に相当)では、21世紀末の降雨量変化倍率は約1.3倍、流量変化倍率は約1.4倍、洪水発生確率の変化倍率は約4倍と予測。
- 将来の気温上昇を2℃以下に抑えることを前提としたRCP2.6シナリオでは、21世紀末の降雨量変化倍率は 約1.1倍、流量変化倍率は約1.2倍、洪水発生確率の変化倍率は約2倍と予測。

気候変動による将来の降雨量、流量、洪水発生確率の変化倍率

前提となる気候シナリオ	降雨量変化倍率 (全国一級水系の平均値)	流量変化倍率 (全国一級水系の平均値)	洪水発生確率の変化倍率 (全国一級水系の平均値)
RCP8.5(4℃上昇に相当)	約1.3倍	約1.4倍	約4倍
RCP2.6(2℃上昇に相当)	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

※降雨量変化倍率は、20世紀末(1951年-2011年)と比較した21世紀末(2090年)時点における一級水系の治水計画の目標とする規模の降雨量変化倍率の平均値
※降雨量変化倍率のRCP8.5シナリオ(4℃上昇に相当)は、産業革命以前に比べて全球平均温度が4℃上昇した世界をシミュレーションしたd4PDFデータを活用して試算
※降雨量変化倍率のRCP2.6シナリオ(2℃上昇に相当)は、表中のRCP8.5シナリオ(4℃上昇に相当)の結果を、日本国内における気候変動予測の不確実性を考慮した結果について(お知らせ)「環境省、気象庁」から得られるRCP8.5、RCP2.6の関係性より換算
※流量変化倍率は、降雨量変化倍率を乗じた降雨より算出した一級水系の治水計画の目標とする規模の流量変化倍率の平均値
※洪水発生確率の変化倍率は、一級水系の現在の計画規模の洪水の、現在と将来の発生確率の変化倍率の平均値
(例えば、洪水発生確率が1/100から1/50に変化する場合は、洪水発生確率の変化倍率は2倍となる)
※降雨量変化倍率は国土技術政策総合研究所による試算値。流量変化倍率と洪水発生確率の変化倍率は、各地方整備局による試算値。

(参考)RCP2.6(2℃上昇に相当)相当の降雨量変化倍率の算出方法

以下の表から得られる地域毎のRCP8.5、RCP2.6の関係性より換算

表 上位5%の降水イベントによる日降水量の変化

	全国	北日本 日本海側	北日本 太平洋側	東日本 日本海側	東日本 太平洋側	西日本 日本海側	西日本 太平洋側
RCP2.6	10.3(7.9~14.5)	7.8(5.2~9.4)	11.3(9.2~12.8)	8.5(7.4~10.6)	10.9(7.4~14.6)	7.5(3.5~14.6)	12.4(7.3~18.9)
RCP4.5	13.2(8.0~16.0)	13.0(9.0~15.5)	16.4(6.8~24.5)	11.1(8.8~14.4)	12.7(8.1~15.3)	12.6(7.6~16.9)	12.7(8.6~15.9)
RCP6.0	16.0(14.8~18.2)	18.1(16.5~19.0)	18.2(16.7~19.5)	19.0(15.7~22.4)	14.7(13.0~16.2)	13.2(9.2~18.6)	16.5(14.1~19.0)
RCP8.5	25.5(18.8~35.8)	28.9(18.0~38.9)	25.7(13.6~37.5)	29.9(23.8~38.3)	22.4(15.3~36.0)	24.0(16.7~30.3)	27.2(18.8~38.6)

(東日本太平洋側での換算例)

$$RCP2.6 = RCP8.5 \times \frac{10.9}{22.4}$$

※RCP2.6、4.6、6.0(3ケース)、RCP8.5(9ケース)における将来気候の予測(2080~2100年平均)と現在気候(1984~2004年平均)の変化率を示す
※各シナリオにおける全ケースの平均値、括弧内に平均値が最小のケースと最大のケース(年々変動等を含めた不確実性の幅ではない)を示す
出典：日本国内における気候変動予測の不確実性を考慮した結果について(お知らせ)【環境省、気象庁】(<http://www.env.go.jp/press/19034.html>)より

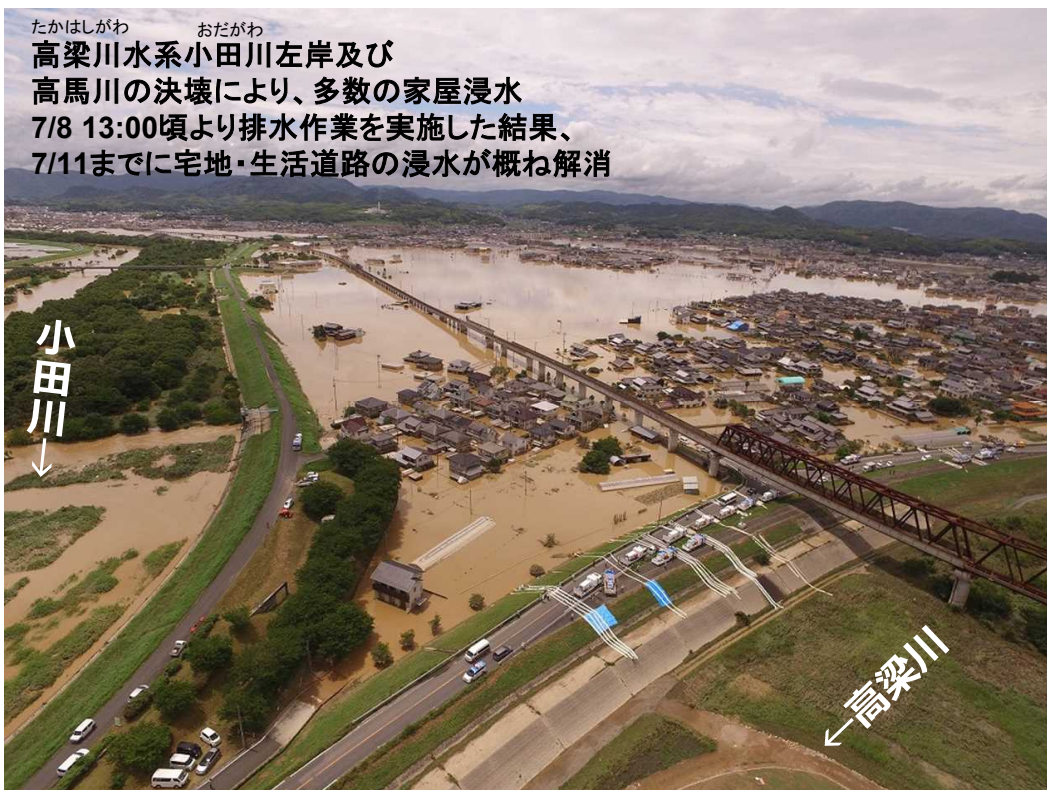
- 平成30年台風第7号及び前線等による大雨(平成30年7月豪雨)により、西日本を中心に、広域的かつ同時多発的に、河川のはん濫、がけ崩れ等が発生。
- これにより、死者220名、行方不明者9名、家屋の全半壊等9,786棟、家屋浸水36,038棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生。※1
- 避難指示(緊急)は最大で915,849世帯・2,007,849名に発令され、その際の避難勧告の発令は985,555世帯・2,304,296名に上った。※2
- 断水が最大262,322戸発生するなど、ライフラインにも甚大な被害が発生。※3

※1:消防庁「平成30年台風第7号及び前線等による被害状況及び消防機関等の対応状況について(第47報)」(平成30年7月31日(火)8時45分)

※2:内閣府「平成30年台風第7号及び前線等による被害状況等について」(平成30年7月8日(日)6時00分)

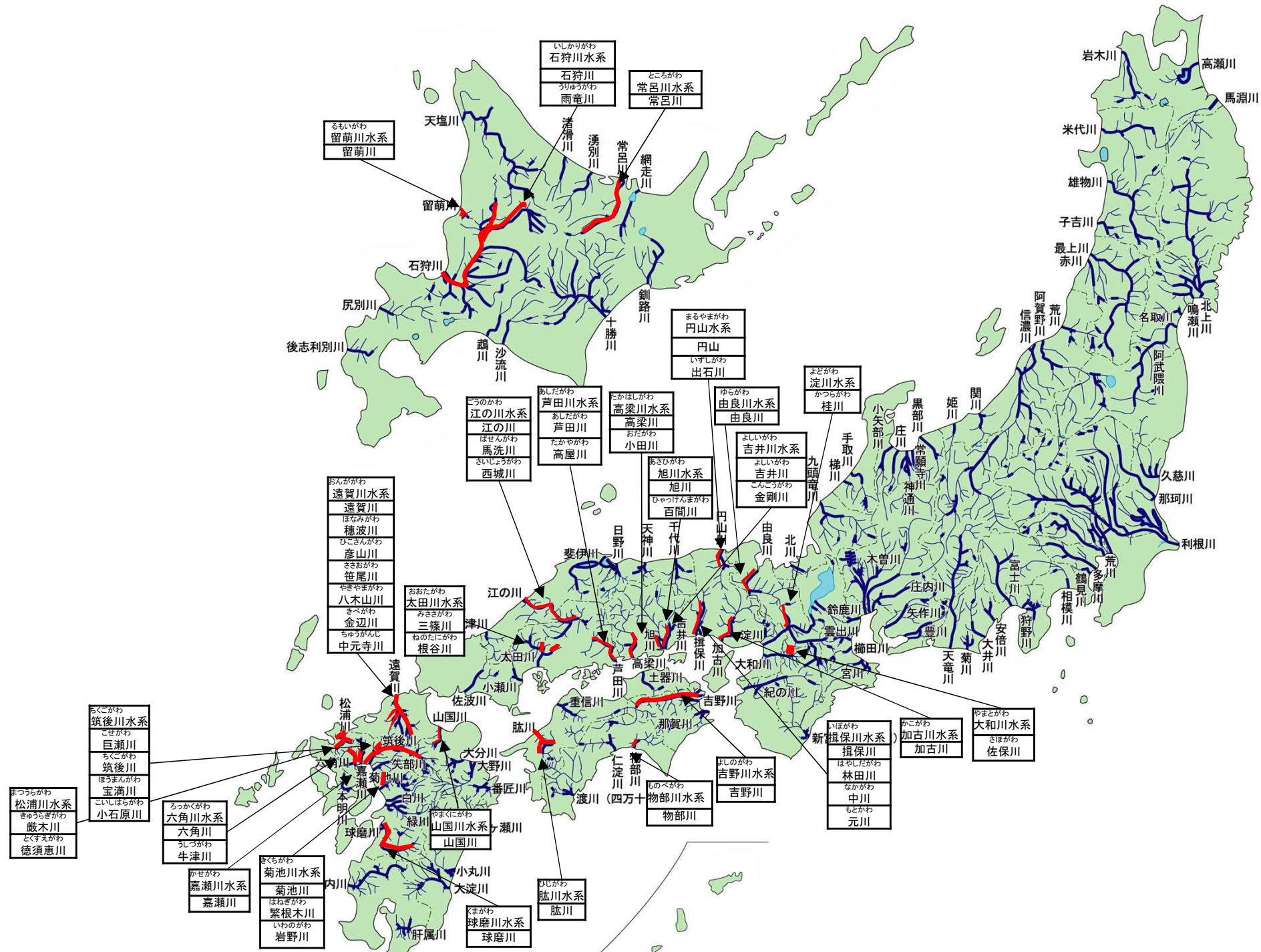
※3:非常災害対策本部「平成30年7月豪雨による被害状況等について」(平成30年7月14日(土)14時00分)

■岡山県倉敷市真備町の浸水及び排水状況



■各地で土砂災害が発生





高梁川水系小田川(岡山県倉敷市)

- 左岸及び複数の支川の決壊、右岸の越水により、多数の家屋等浸水(約1,200ha、約4,100戸)(7/7)
- 排水作業により浸水は概ね解消(7/11)
- 決壊2箇所及び法崩れ1箇所にて緊急復旧を実施。7月15日に堤防締切盛土の施工が完了。**



○ 国管理河川の主な被災箇所

No.	水系	主な河川	主な市町村
①	由良川	由良川	京都府福知山市
②	江の川	江の川	島根県江津市
③	江の川	馬洗川	広島県三次市
④	高梁川	小田川	岡山県倉敷市
⑤	芦田川	芦田川	広島県福山市
⑥	太田川	三篠川	広島県広島市
⑦	肱川	肱川	愛媛県大洲市
⑧	遠賀川	遠賀川	福岡県飯塚市
⑨	筑後川	巨瀬川	福岡県久留米市
⑩	六角川	武雄川	佐賀県武雄市

○ 府県管理河川の主な被災箇所

No.	水系	主な河川	主な市町村
①	木曾川	津保川	岐阜県関市
②	由良川	犀川	京都府綾部市
③	高野川	高野川	京都府舞鶴市
④	旭川	旭川	岡山県岡山市
④	旭川	砂川	岡山県岡山市
⑤	高梁川	高梁川	岡山県総社市
⑥	高梁川	小田川	岡山県矢掛町
⑦	芦田川	福川	広島県福山市
⑦	手城川	手城川	広島県福山市
⑧	芦田川	御調川	広島県府中市
⑨	太田川	矢口川	広島県広島市
⑨	太田川	府中大川	広島県広島市
⑨	太田川	榎川	広島県府中町
⑩	総頭川	総頭川	広島県坂町
⑩	瀬野川	瀬野川	広島県広島市
⑩	矢野川	矢野川	広島県広島市
⑪	西野川	西野川	広島県三原市
⑪	沼田川	沼田川	広島県三原市
⑫	野呂川	中畑川	広島県呉市
⑬	島田川	島田川	山口県周南市、光市
⑭	肱川	肱川	愛媛県大洲市、西予市
⑮	渡川	広見川	愛媛県松野町、鬼北町
⑯	安芸川	安芸川	高知県安芸市
⑰	松田川	松田川	高知県宿毛市
⑱	筑後川	山ノ井川	福岡県大木町
⑱	筑後川	大刀洗川	福岡県大刀洗町

肱川水系肱川(愛媛県大洲市)

- 全ての暫定堤防箇所や、東大洲地区の二線堤からの越水等により、大洲市全域で浸水家屋数3,022戸(床上2,238戸、床下784戸)の被害が発生(7月29日 19時現在 大洲市調べ)。
- 7月8日までに浸水は解消



※速報であり、内容・数値等が今後変更になる場合があります。

- 国土交通省所管が所管する558ダムのうち、213ダムにおいて洪水調節を実施。
- ダムで洪水を貯留することにより、下流河川の水位を低下させ、流域の被害軽減・防止効果を発揮。
- なお、8ダムで、異常洪水時防災操作を実施。

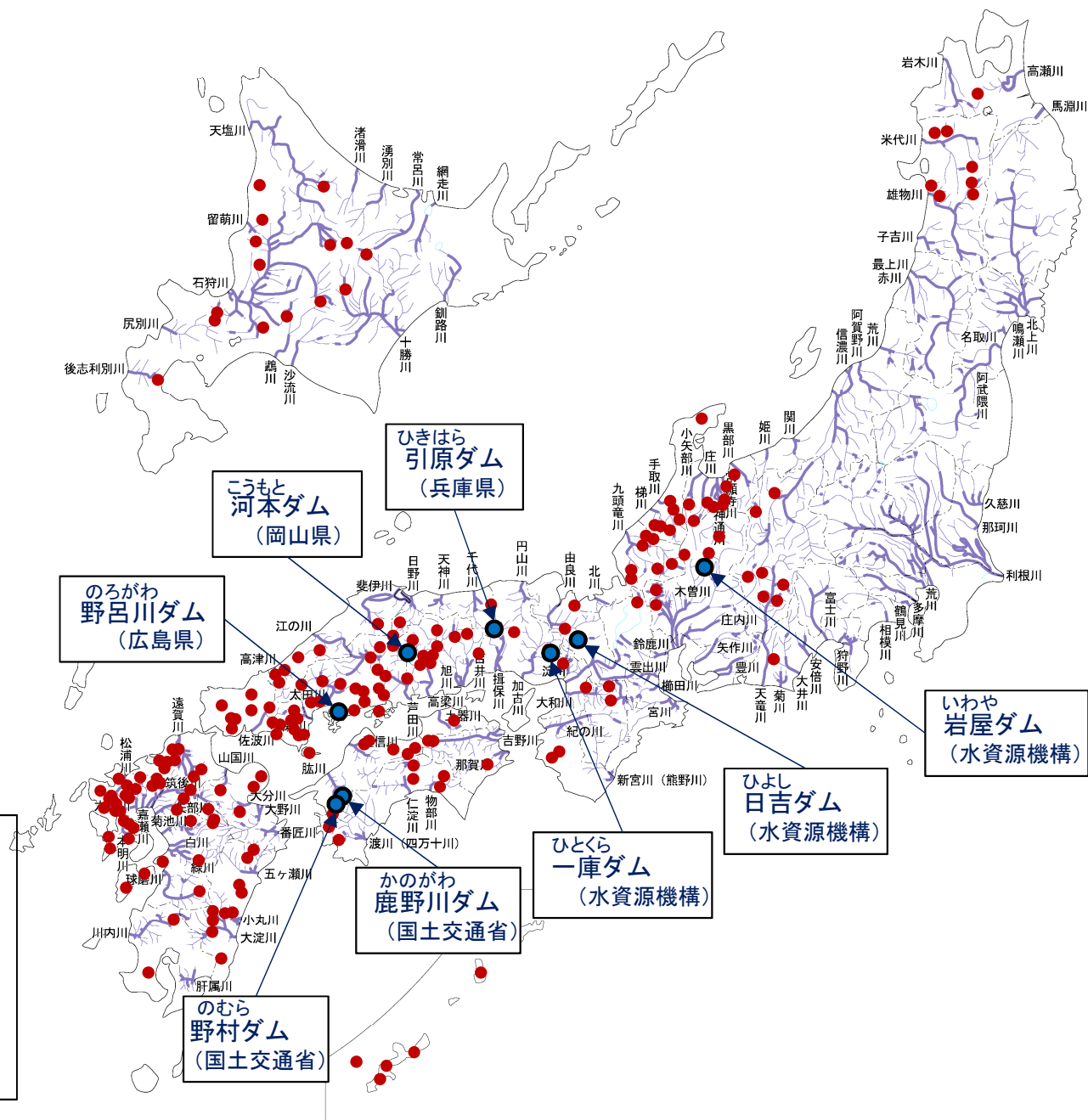
【凡例】

●

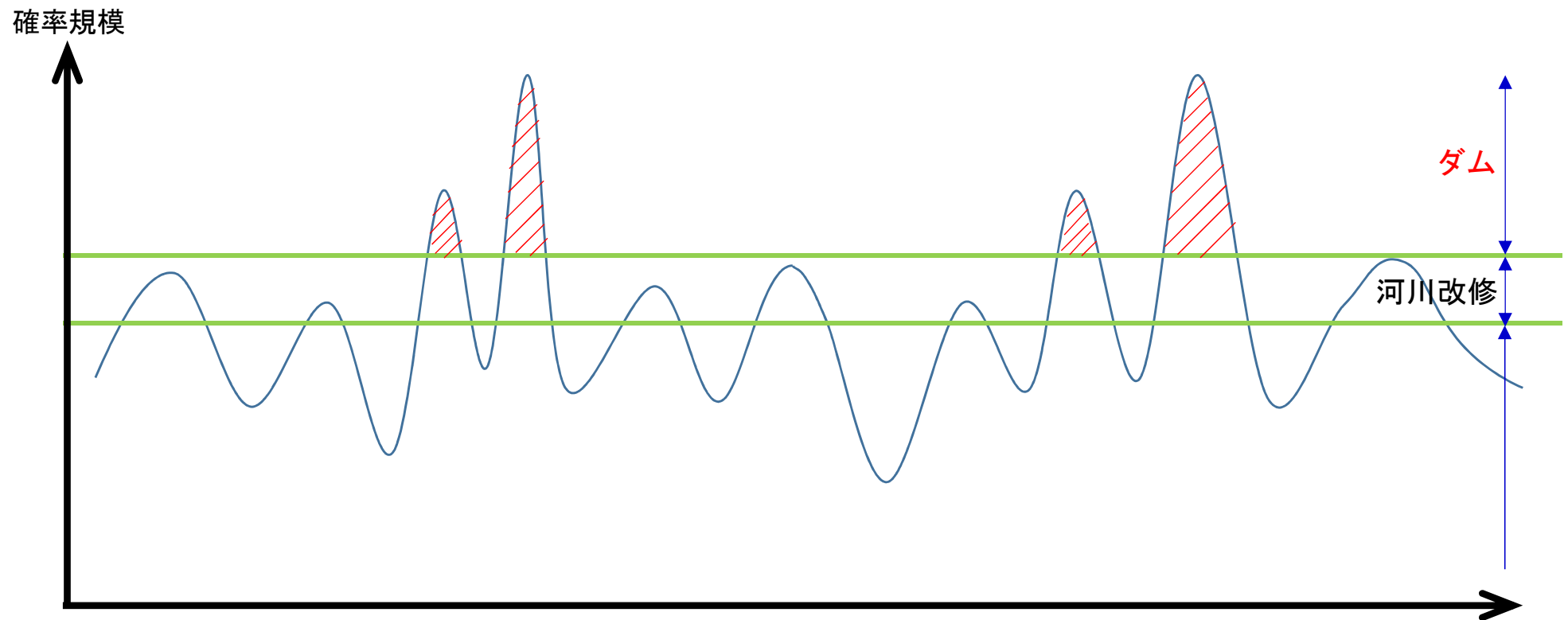
 : 洪水調節を実施したダム

●

 : 異常洪水時防災操作を実施したダム

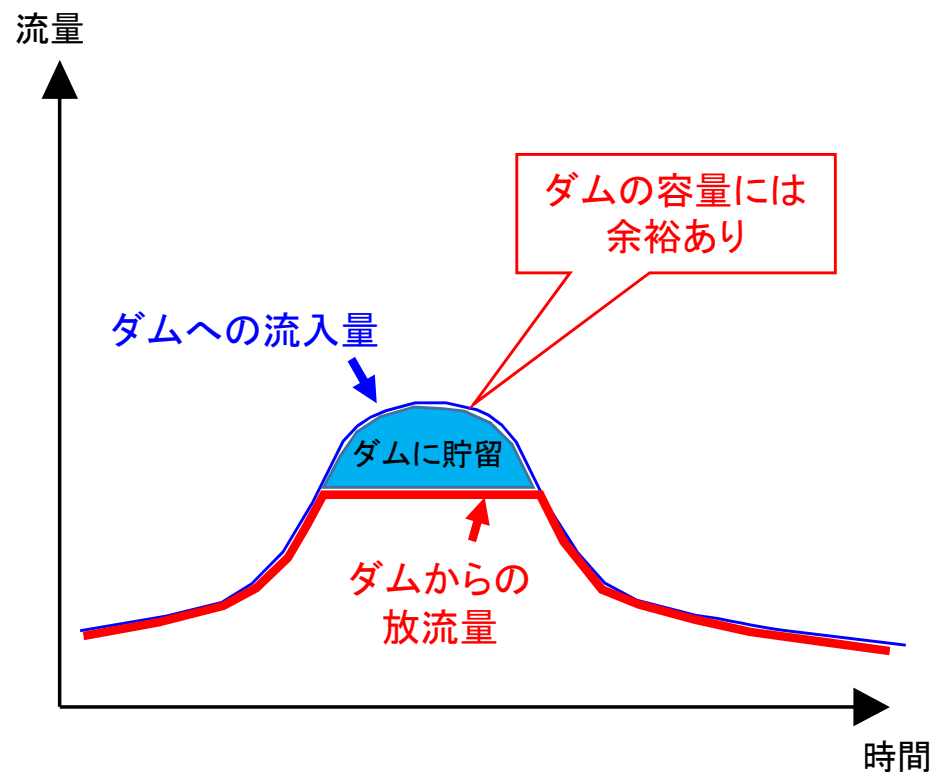


河川改修とダムの役割分担イメージ

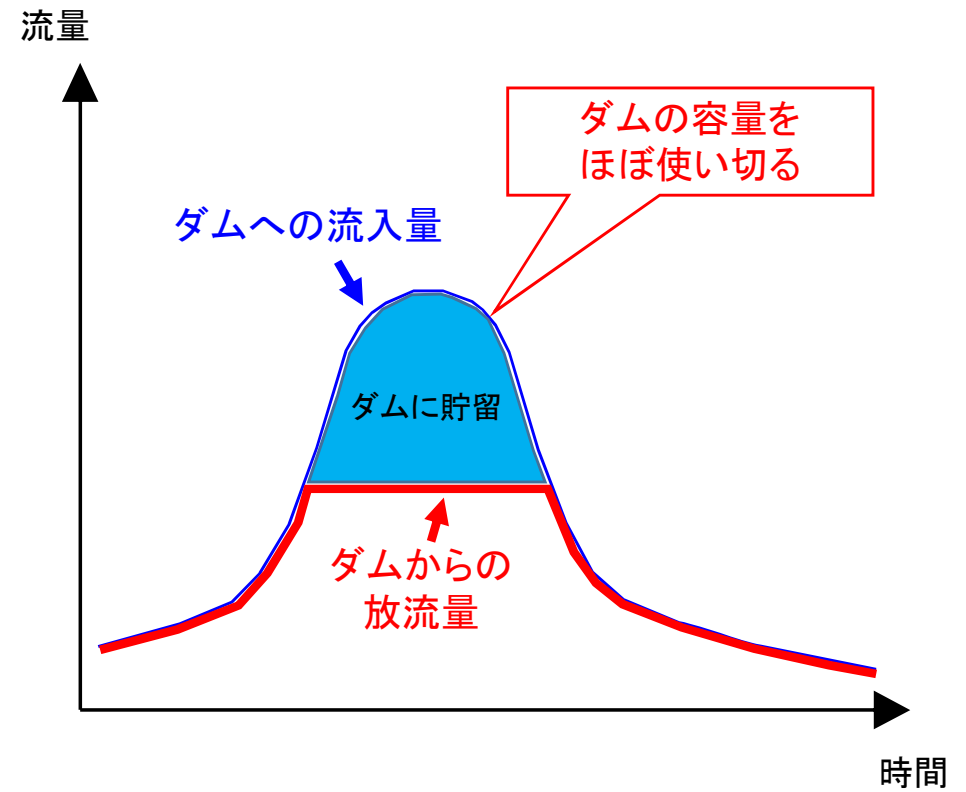


ダムの洪水調節(1)

計画規模未満の洪水

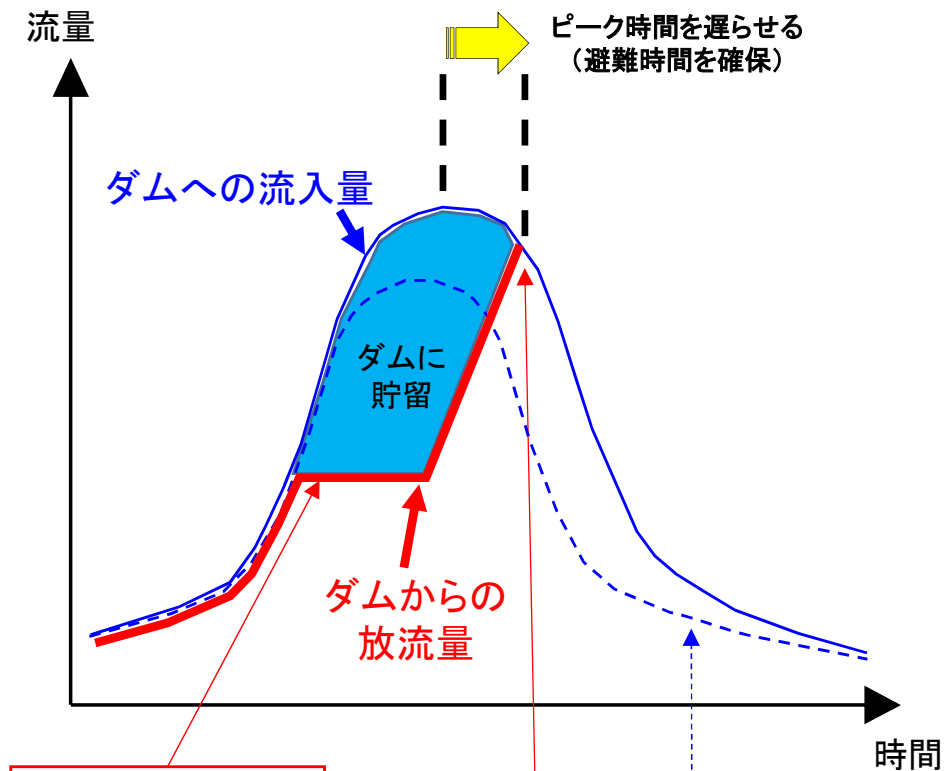


計画規模の洪水



ダムの洪水調節(2)

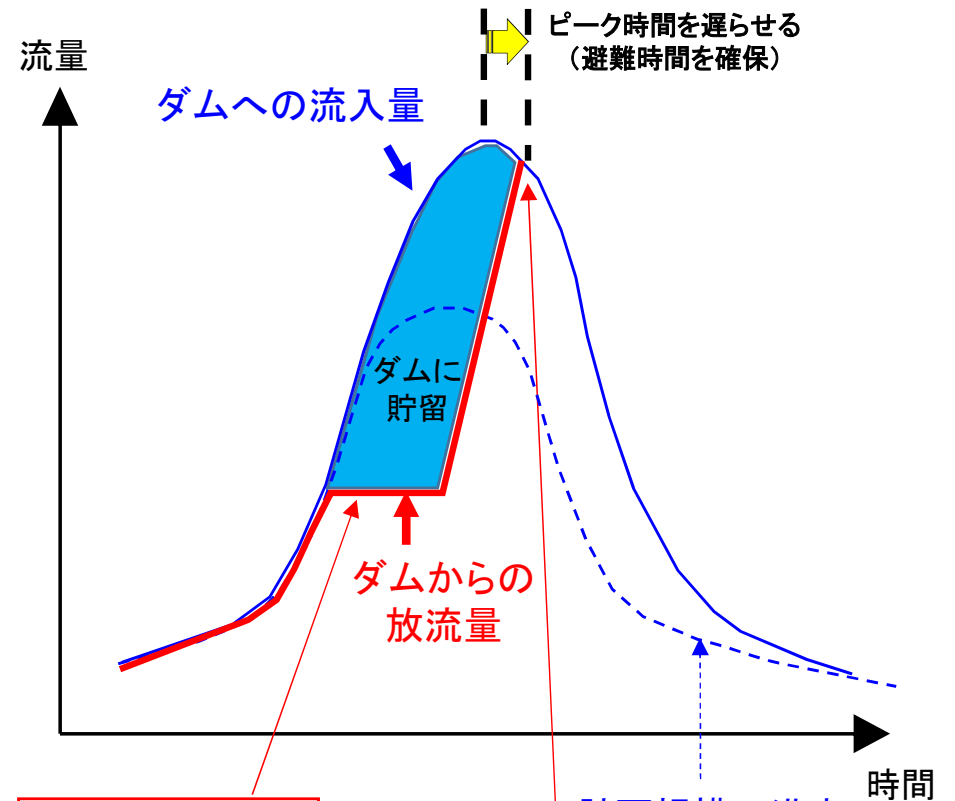
計画規模を上回る洪水



安全な流量が
流れているうちに
避難が可能

流入量と同程度の流量となるが、
それまで河川水位を大幅に
低減させていたこと等から被害を軽減

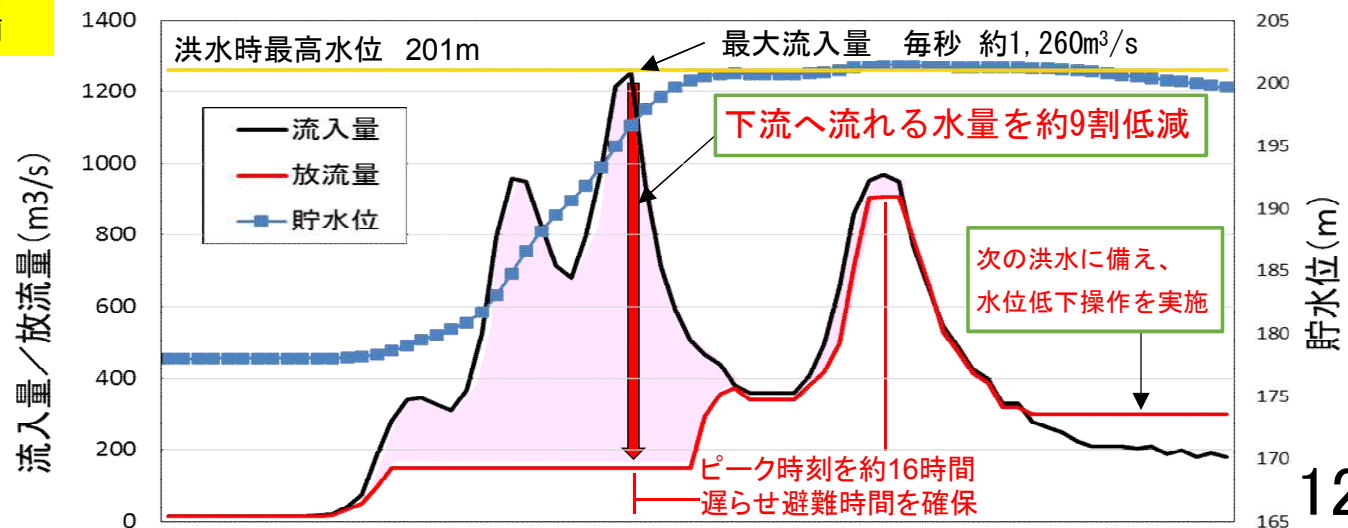
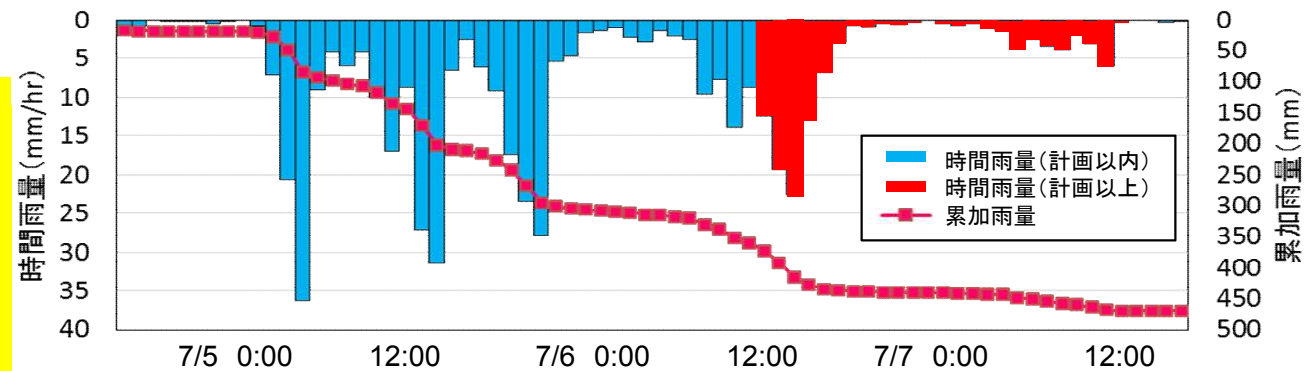
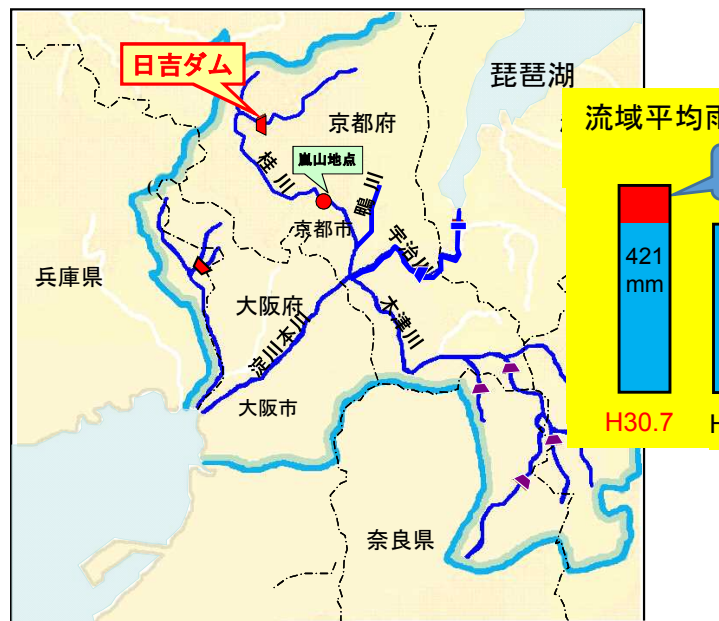
計画規模を大きく上回る洪水



安全な流量が
流れているうちに
避難が可能

流入量と同程度の流量となるが、
それまで河川水位を大幅に
低減させていたこと等から被害を軽減

- 活発な梅雨前線の影響により、断続的に4回の豪雨が発生し、2日間の累加雨量は観測史上最大。
 - 河川流量が最大となった3回目の豪雨時には、**日吉ダムの洪水調節によって約9割の流量低減**。
 - 4回目の豪雨前に日吉ダムは満杯に近づいたが、それまで河川水位を大幅に低下させていたことや、その後も洪水調節を継続したことから、**亀岡市や京都市嵐山付近の被害を大幅に軽減**。
 - また、日吉ダムの洪水調節により、洪水ピーク時刻を大幅に遅らせたことや、河川水位予測の迅速な情報提供により、**避難時間を確保することに貢献**。
- ※5年前に今回と匹敵する(今回の方が大きい)豪雨が発生し大規模な浸水被害が発生したが、その後の緊急治水対策の結果、今回は大幅に被害を軽減。



洪水貯留開始直後の貯水池の状況 (7月5日8時頃) 洪水時最高水位に近づく貯水池の状況 (7月6日10時頃)

平成30年7月豪雨に伴う洪水に対して、これまでの河川整備が効果を発揮(桂川 久我地区) **速報版**

- 桂川では、平成25年台風18号を契機に「桂川緊急治水対策」として、約64万 m^3 の掘削を実施。
- これまでに実施した河道掘削により、久我地区(桂川7.0k)において水位を約0.5m低減させ、計画高水位以下で安全に流すことが可能となり、堤防決壊を回避し、決壊時に想定される浸水被害(約850ha)を解消。

位置図



平成30年7月豪雨のピーク時写真



羽束師橋下流の掘削状況

<工事実施前(平成27年3月)>



羽束師橋上流の掘削状況



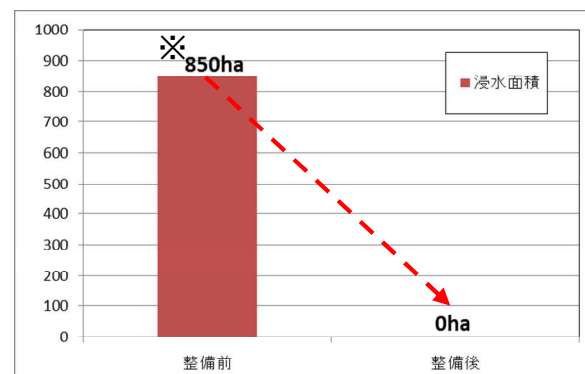
久我地区下流



<工事完了後(平成27年10月)>



浸水被害効果



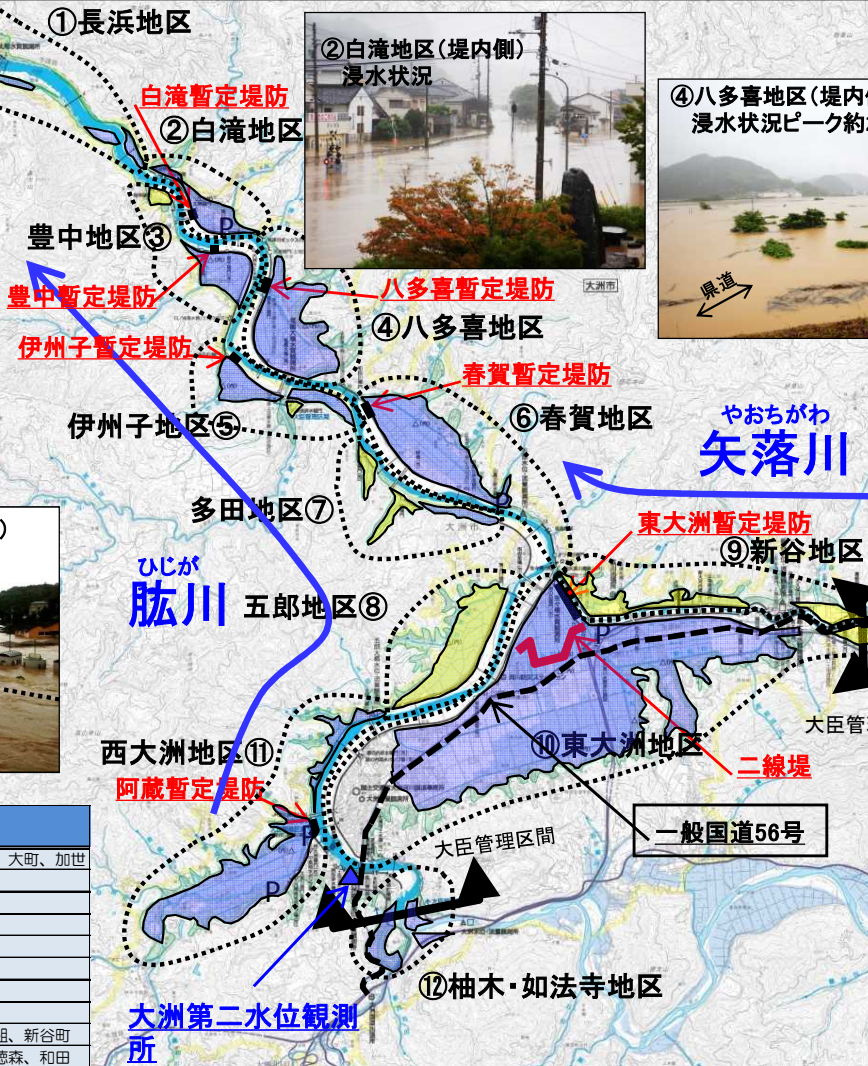
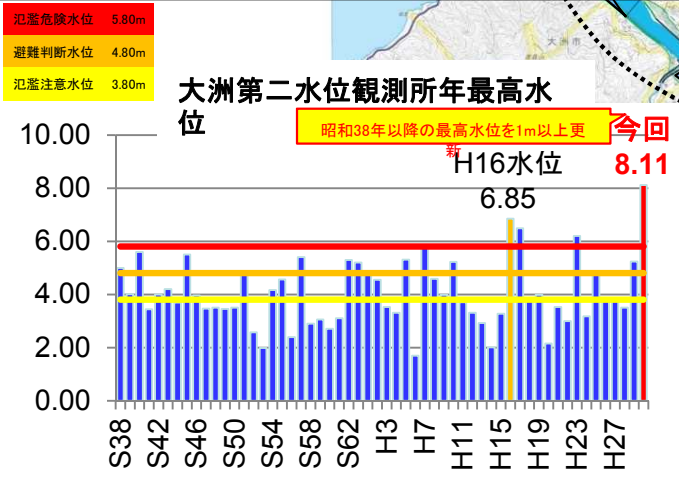
※計画高水位で堤防が決壊した場合の浸水被害を推定

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

肱川水系肱川 浸水状況について

7月31日 9時現在

- 平成30年7月豪雨により、大洲市全域で浸水家屋数3,022戸（床上2,238戸、床下784戸）の被害が発生（7月29日 19時現在 大洲市調べ）。
- 直轄区間においては阿蔵地区をはじめ、全ての暫定堤防箇所が越流。東大洲については、二線堤からも越流し、主要国道56号が冠水し、沿道の商業施設も浸水するなど甚大な浸水被害が発生。7月8日午後までに浸水は解消。
- 大洲第二水位観測所の水位は、詳細な水位記録が存在する昭和38年以降で最高水位（8.11m）を記録。



市町村名	箇所番号	地区名	浸水面積 (ha)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	総戸数 (戸)	備考
大洲市	①	長浜地区	約11		調査中		小浦、惣瀬、小長浜、大町、加世
	②	白滝地区	約13		調査中		
	③	豊中地区	約24		調査中		豊中、柿早
	④	八多喜地区	約66	131	34	165	
	⑤	伊州子地区	約26		調査中		伊州子、八多浪
	⑥	春賀地区	約83	64	31	95	春賀、山高、大谷
	⑦	多田地区	約19		調査中		多田、峠
	⑧	五郎地区	約52		調査中		
	⑨	新谷地区	約28	77	41	118	小貝、都、中組、上組、新谷町
	⑩	東大洲地区	約462	856	448	1,304	東大洲、二線堤内、徳森、和田
	⑪	西大洲地区	約88	471	93	564	久米、西大洲、玉川
	⑫	柚木・如法寺地区	約15		調査中		
合 計			約887	1,599	647	2,246	

浸水被害の状況(直轄区間)

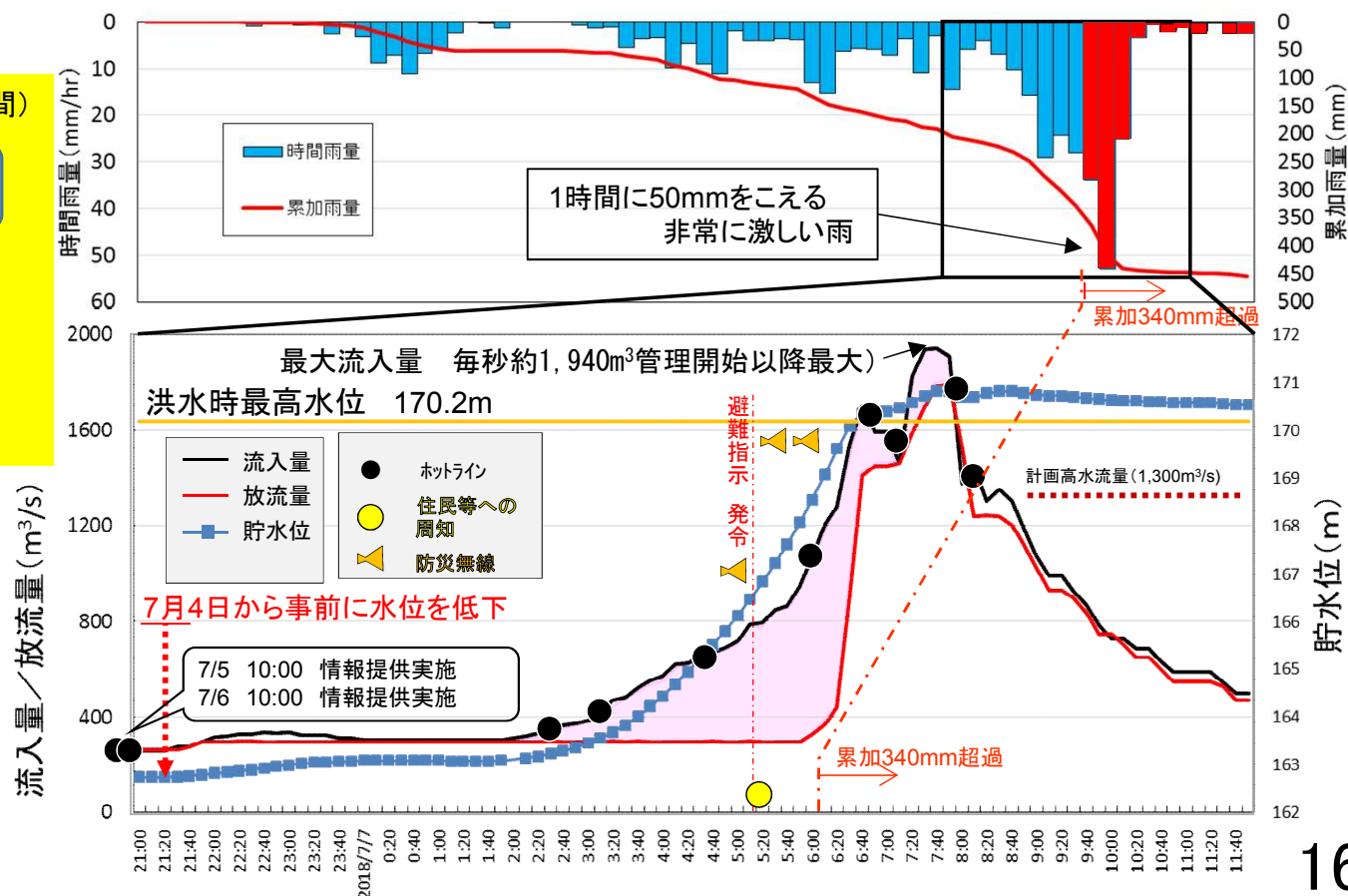
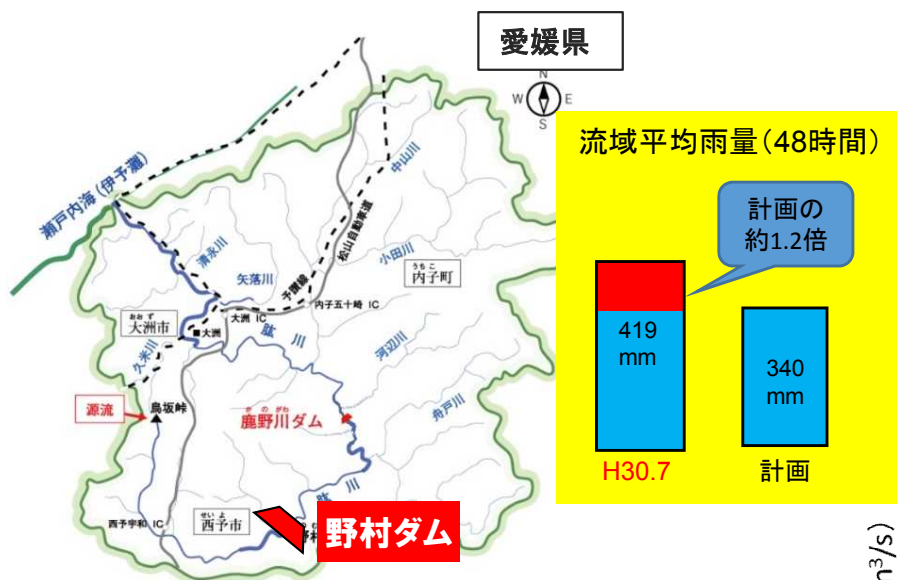
※本資料の数値等について、直轄区間の浸水範囲は国土交通省調査、指定区間の浸水範囲は愛媛県調査、浸水家屋数は大洲市調査、県道冠水は愛媛県調査、市道冠水は大洲市調査、避難勧告及び避難状況は大洲市調査によるもの。



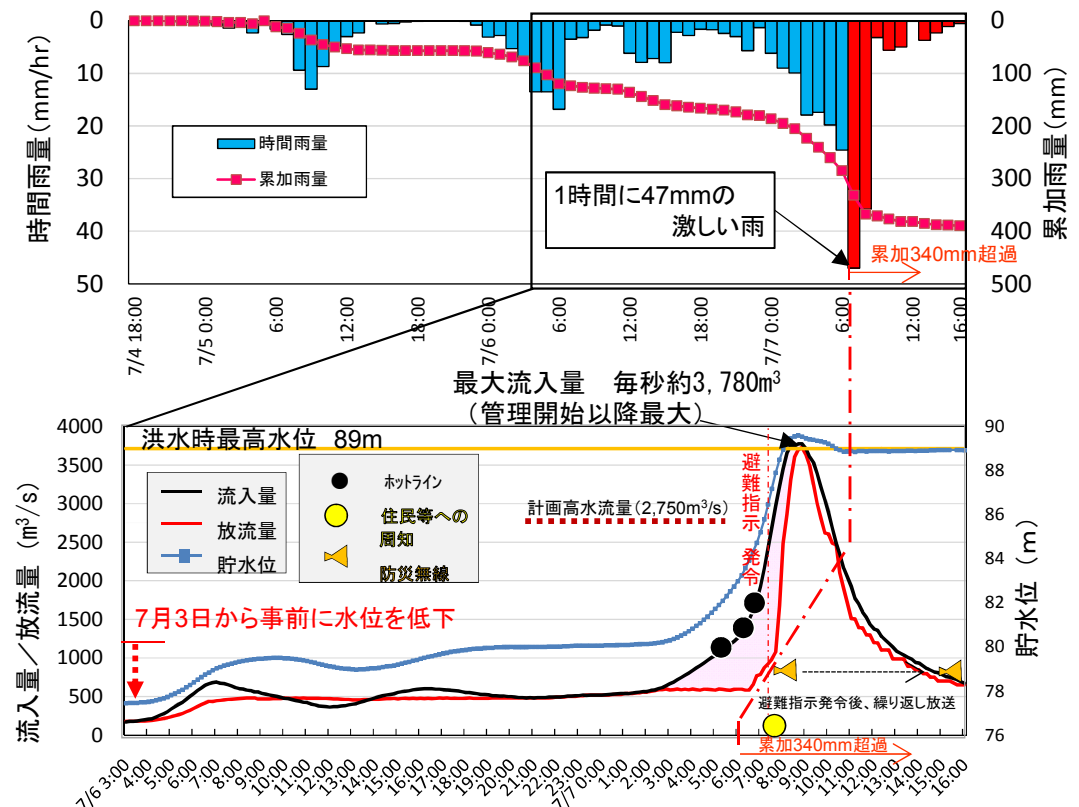
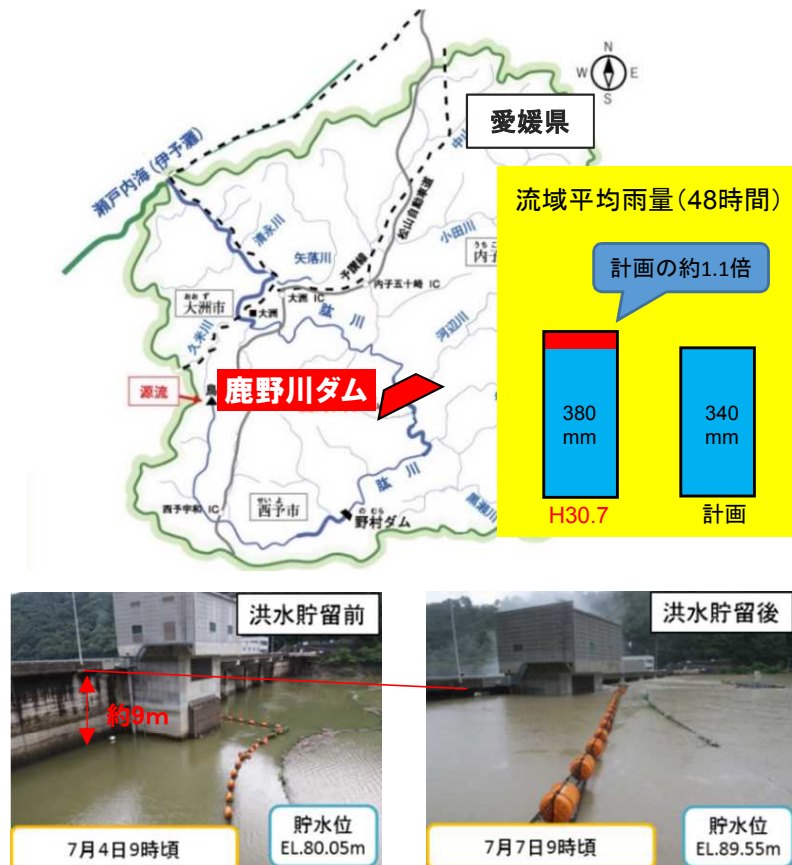
平成30年7月豪雨による被害		
箇所	被害項目	被害数量
(直轄区間) 大洲市	浸水家屋数	約4,600世帯 床上：約3,000世帯 床下：約1,600世帯
	浸水面積	約440ha ※東大洲地区のみ
(菅田地区) 大洲市	浸水家屋数	約180戸 床上：約160戸 床下：約20戸
	浸水面積	約420ha
野村地区 西予市	浸水家屋数	約650戸 床上：約570戸 床下：約80戸
	浸水面積	約36ha

近年の浸水被害状況(大洲市全域)		
平成 7年 梅雨前線	浸水家屋数	1195戸 床上：768戸 床下：427戸
	浸水面積	農地601ha 宅地356ha
平成 16年 台風16号	浸水家屋数	574戸 床上：297戸 床下：277戸
	浸水面積	839ha
平成 17年 台風14号	浸水家屋数	312戸 床上：145戸 床下：167戸
	浸水面積	713ha

- 活発な梅雨前線の影響により、野村ダム上流域の2日間の累加雨量は計画の降雨量を超過。
- 野村ダムでは、洪水3日前の7月4日から事前に水位を低下させ、通常の洪水調節容量350万m³に250万m³を加えた600万m³の容量を確保しており、洪水時には650万m³を貯留。
- 7月6日22時10分に洪水調節を開始する旨を関係機関に連絡し、7日3時11分には「6時20分には異常洪水 時防災操作を開始する見込み」である旨を管理所長から西予市野村支所長にホットラインにより伝達し、5時10分には西予市より避難指示の発令を伝える防災無線により各戸及び屋外のスピーカーにより繰り返し放送されている。5時15分には住民への周知のため、警報所のサイレンの吹鳴、警報所及び警報車のスピーカーによる注意喚起を実施している。



- 活発な梅雨前線の影響により、鹿野川ダム上流域の2日間の累加雨量は計画の降雨量を超過。
- 鹿野川ダムでは、洪水4日前の7月3日から事前に水位を低下させ、通常の洪水調節容量1,650万m³に、570万m³を加えた2,220万m³の容量を確保しており、洪水時には、約2,360万m³を貯留。
- 7月7日4時30分に洪水調節を開始する旨を関係機関に連絡し、7日5時10分に「異常洪水時防災操作を開始する見込み」、6時20分に「7時30分頃に異常洪水時防災操作を開始する見込み」である旨を事務所長から大洲市長にホットラインにより伝達。7時30分には大洲市より避難指示の発令を伝える防災無線により各戸及び屋外のスピーカーにより繰り返し放送。6時18分には住民の周知のため、警報所のサイレンの吹鳴、警報所及び警報車のスピーカーによる注意喚起を実施。



＜平成30年7月豪雨関連＞

「野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる
情報提供等に関する検証等の場」を設置します。

平成30年7月17日

今般、平成30年7月の前線等による記録的な豪雨により肱川水系で甚大な被害が発生しました。

野村ダムや鹿野川ダムは操作規則に従い適切に操作を行うとともに、関係機関に対して数次にわたる情報提供を行っております。

しかしながら、これまでに経験のない異常な豪雨であったことを踏まえ、四国地方整備局において、より有効な情報提供や住民への周知のあり方について検証を行うとともに、より効果的なダム操作について技術的考察を行うことを目的に、「野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場」を7月19日に設置します。

第1回は、現地調査等を下記の通り行います。

＜第1回検証等の場＞

日 時：平成30年7月19日（木）10:00～14:30

野村ダム・鹿野川ダムの操作ルールについて

○ダム運用開始時(従来)の操作ルールは、大規模な洪水を対象とした一定率一定量方式による洪水調節であったことから、頻繁に発生する中小洪水に対して、現況の堤防状況を鑑みて、当面の流域における洪水被害の軽減を図ることを目的に、一定量後一定開度方式に変更。(平成8年6月)

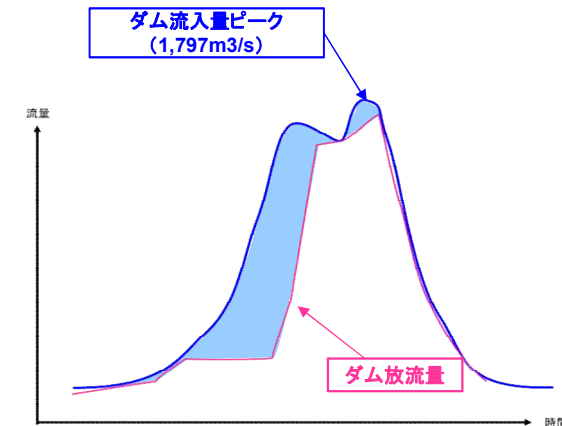
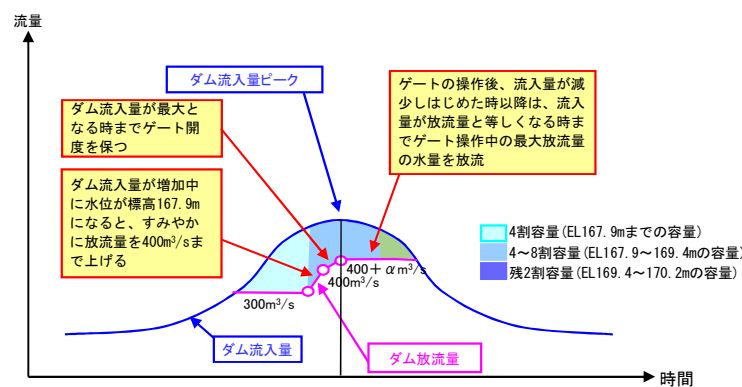
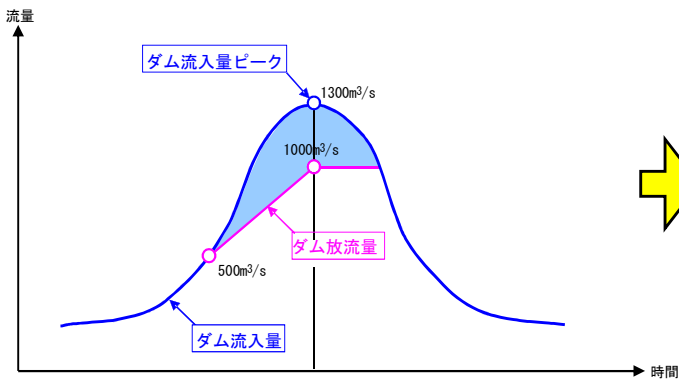
従来の操作ルール
(管理開始～)

平成7年7月
洪水発生

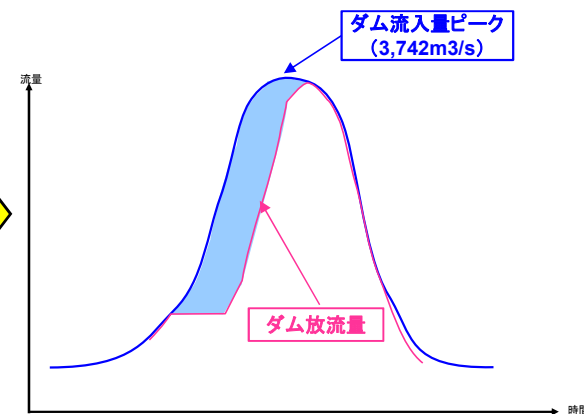
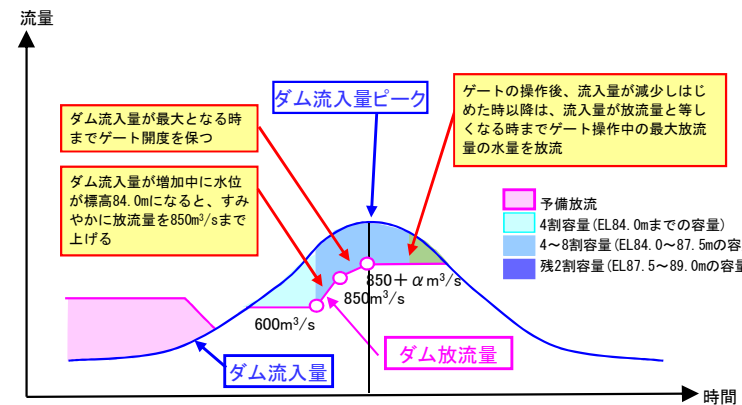
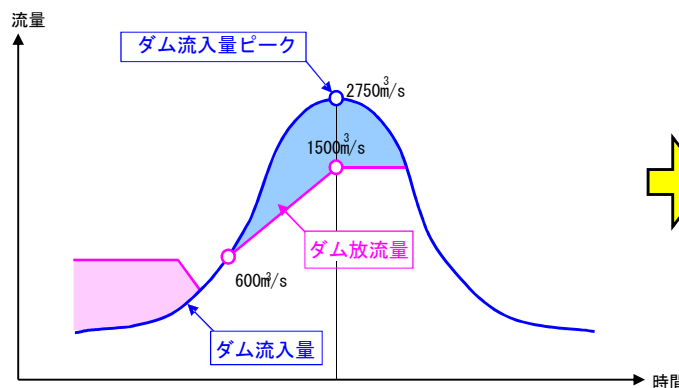
変更後の操作ルール
(H8～)

平成30年7月豪雨時の操作

野村ダム



鹿野川ダム



決壊等による激甚な被害

○ 河川では35箇所(うち、都道府県管理河川が33箇所)での決壊等が発生。

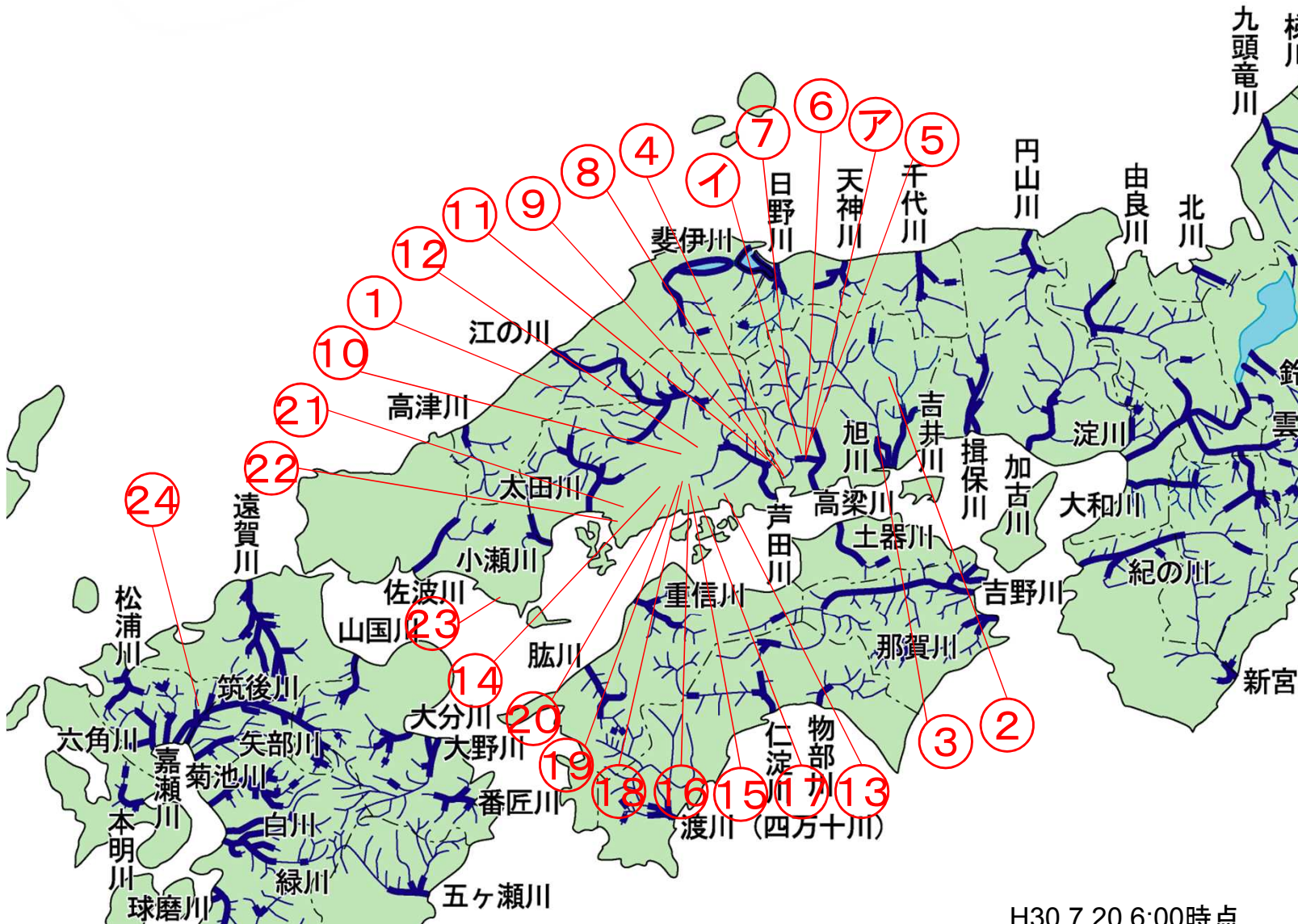
●決壊箇所一覧

国管理河川(2箇所)

No	整備局	水系	河川	市町村	箇所数
ア	中国	たかはしがわ高梁川	おだがわ小田川	くらしき倉敷市	1
イ	中国	たかはしがわ高梁川	おだがわ小田川	くらしき倉敷市	1

都道府県管理河川(33箇所)

No	県	水系	河川	市町村	箇所数
1	島根	ごうかわ江の川	やとがわ八戸川	ごうし江津市	1
2	岡山	あさひがわ旭川	あさひがわ旭川	おかやまし岡山市	1
3	岡山	あさひがわ旭川	すながわ砂川	おかやまし岡山市	1
4	岡山	たかはしがわ高梁川	おだがわ小田川	やがけよう矢掛町	3
5	岡山	たかはしがわ高梁川	すえまさがわ末政川	くらしき倉敷市	3
6	岡山	たかはしがわ高梁川	たかまがわ高馬川	くらしき倉敷市	2
7	岡山	たかはしがわ高梁川	だにがわ真谷川	くらしき倉敷市	1
8	岡山	たかはしがわ高梁川	いわくらがわ岩倉川	いばらし井原市	1
9	岡山	たかはしがわ高梁川	おさかがわ尾坂川	かさかし笠岡市	1
10	岡山	あした がわ芦田川	たかまがわ高屋川	いばらし井原市	1
11	広島	あした がわ芦田川	あした がわ芦田川	せらよう世羅町	1
12	広島	あした がわ芦田川	よしのがわ吉野川	ふくやまし福山市	1
13	広島	ほんごうがわ本郷川	ほんごうがわ本郷川	ふくやまし福山市	1
14	広島	めた がわ沼田川	にゅうのがわ入野川	ひがしひろしま東広島市	1
15	広島	めた がわ沼田川	すげがわ菅川	みはらし三原市	3
16	広島	めた がわ沼田川	てんじょうがわ天井川	みはらし三原市	1
17	広島	めた がわ沼田川	ぶつうじがわ仏通寺川	みはらし三原市	1
18	広島	めた がわ沼田川	なしわがわ梨和川	みはらし三原市	1
19	広島	めた がわ沼田川	みつがわ三次川	みはらし三原市	1
20	広島	かもがわ賀茂川	かもがわ賀茂川	たけはらし竹原市	1
21	広島	のら がわ野呂川	なかはたがわ中畑川	くれし呉市	3
22	広島	くろせ がわ黒瀬川	さきの がわ笹野川	ひがしひろしま東広島市	1
23	山口	しまた がわ島田川	しまた がわ島田川	しゅうなんし周南市	1
24	福岡	ちくご がわ筑後川	たちあらい がわ大刀洗川	たちあらいまち大刀洗町	1



H30.7.20 6:00時点

※灰色は本川決壊河川 計35箇所 20

平成30年7月豪雨による被災状況(高梁川水系小田川)

○ 高梁川水系小田川では倉敷市真備町で堤防が決壊し、大規模な浸水により甚大な被害が発生したほか、堤防の損傷が多数発生した。



＜小田川の被災状況＞

浸水面積 : 約1,200ha
 浸水戸数 : 約4,100棟
 堤防の決壊 : 2箇所(国管理)
 6箇所(県管理)
 堤防法崩れ : 6箇所(国管理)
 1箇所(県管理)
 越水 : 3箇所(国管理)



【堤防の決壊】L=約100m
 小田川左岸3k400付近



【堤防の決壊】左岸L=約200m
 右岸L=約300m
 末政川左右岸0k700付近(県)



【堤防の決壊】L=約20m
 末政川左岸0k400付近(県)



【裏法崩れ】L=約80m
 小田川左岸4k200付近



【堤防の決壊】
 左岸L=約20m(高馬川左岸0k付近)
 右岸L=約100m(高馬川右岸0k100付近)



【裏法崩れ】L=約30m
 小田川右岸0k600付近

【堤防の決壊】L=約50m
 小田川左岸6k400付近

【越水】
 右岸3k200付近

【裏法崩れ】L=約1,000m(点在)
 小田川右岸2k800~3k800付近

【越水】
 右岸7k000付近

【越水】
 右岸4k000付近

【裏法崩れ】L=約15m
 小田川右岸4k200付近

【裏法崩れ】L=約50m
 大武谷川(県)小田川合流点付近

【堤防の決壊】L=約100m
 真谷川左岸1k600付近(県)

【表法崩れ】L=約70m
 小田川右岸4k400付近

【裏法崩れ】L=約16m
 小田川右岸4k200付近

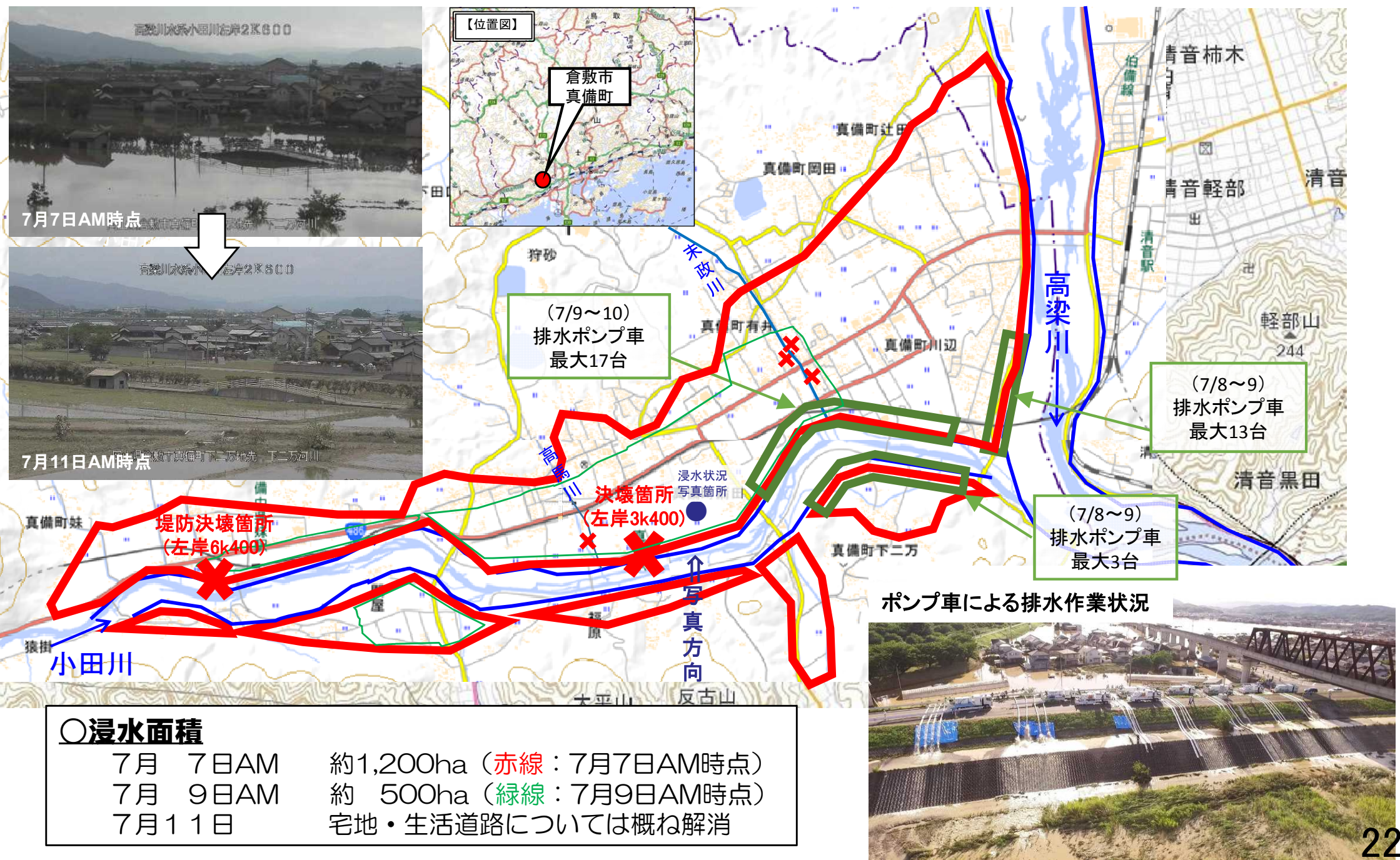


凡例
 ×: 堤防の決壊
 ▲: 堤防欠損
 ●: 越水

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

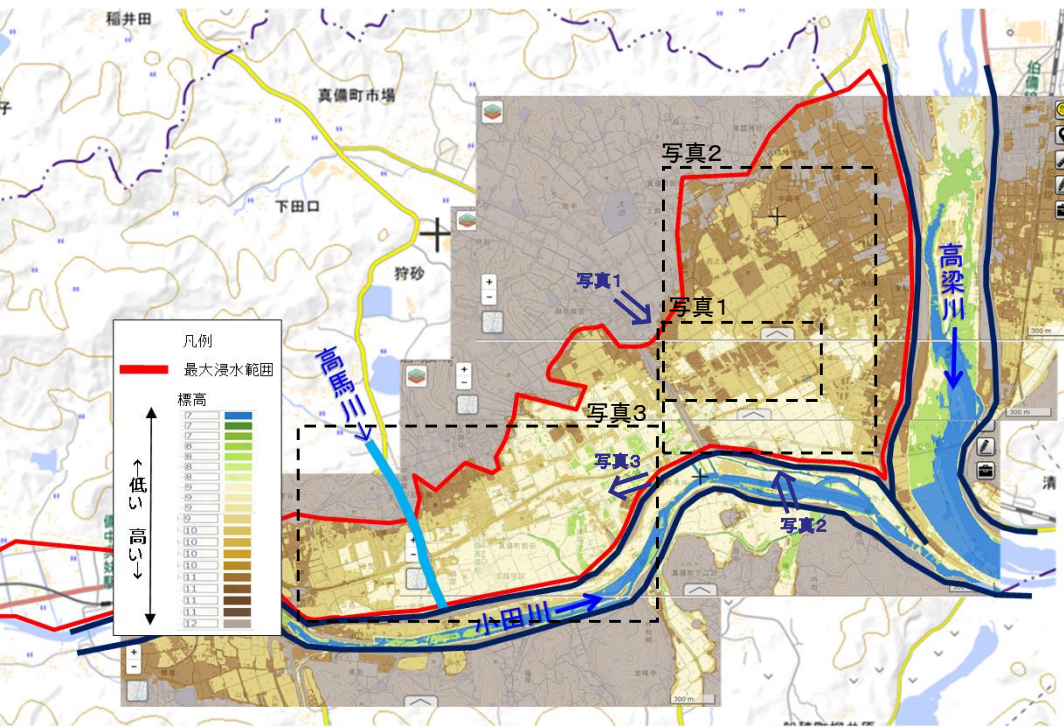
※7/16 15時時点
 県管理区間も含む

平成30年7月豪雨による浸水地域の排水状況【高梁川水系小田川】①



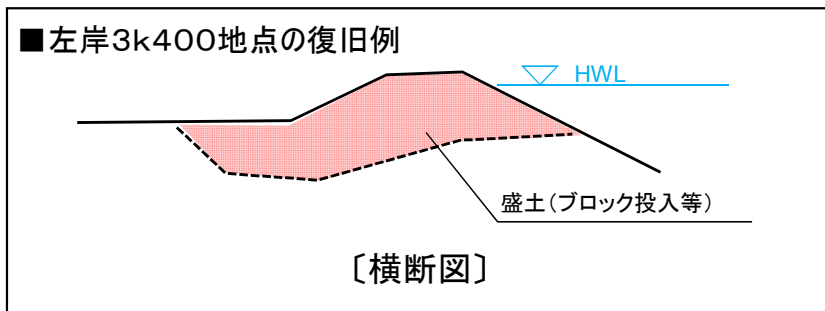
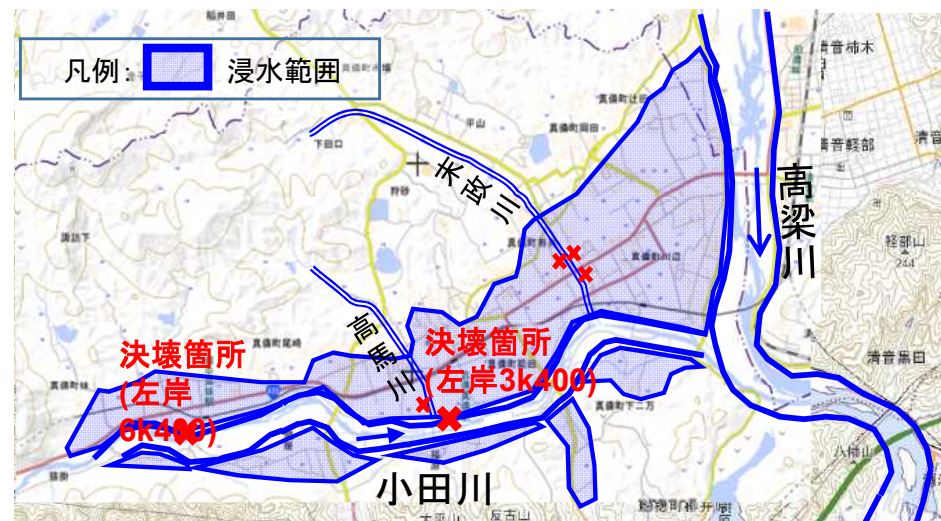
平成30年7月豪雨による浸水地域の排水状況【高梁川水系小田川】②

※7/10PM 撮影



平成30年7月豪雨による状況【高梁川水系小田川 堤防の復旧】 7月21日 10時現在

■被災状況(左岸3k400及び6k400付近)

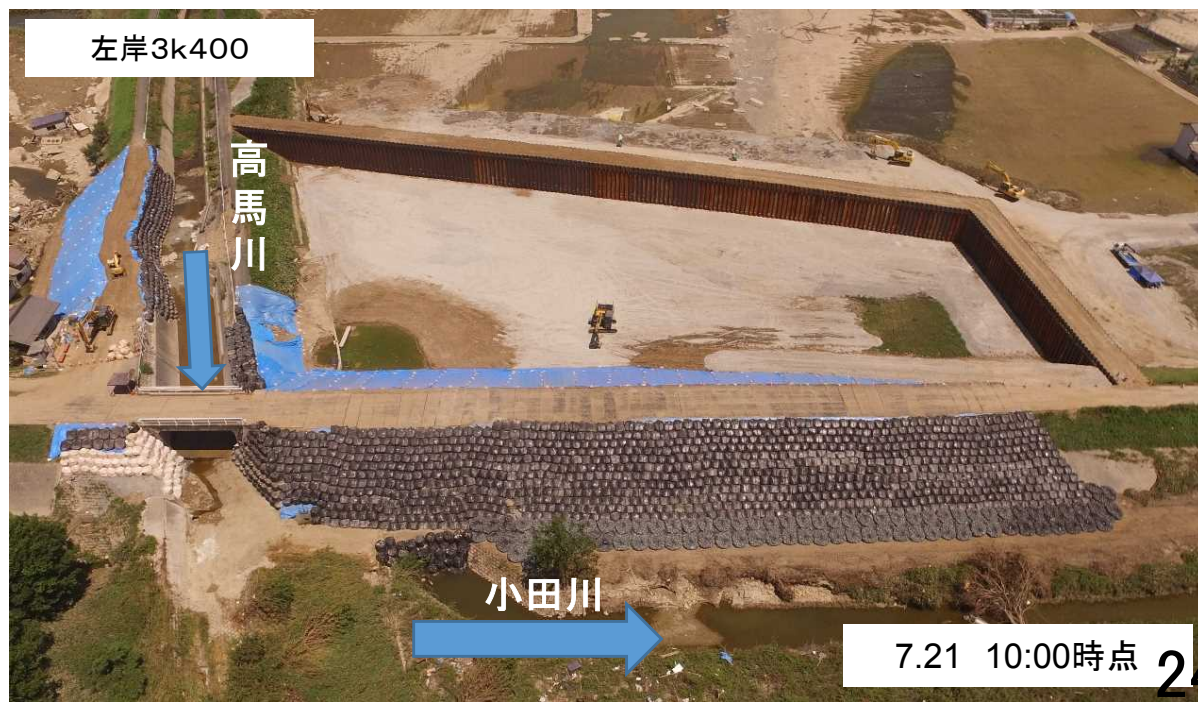


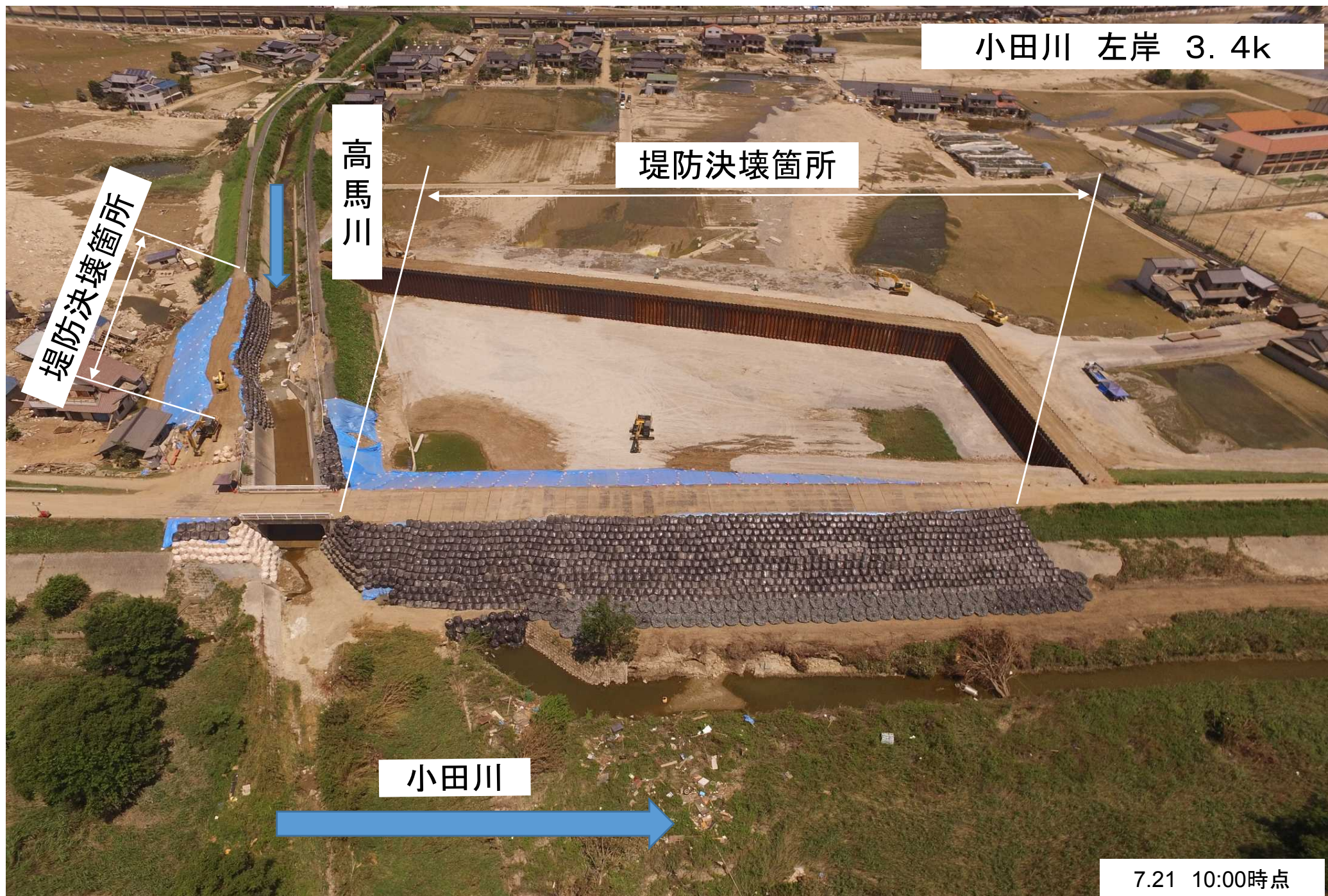
■復旧概要

- ・倉敷市真備町における大規模な浸水被害の主な原因となった小田川の堤防決壊は、左岸3k400地点及び6k400地点の2箇所で発生。
- ・氾濫した洪水の排水を優先させ、決壊地点の本格的な締切りは施工を保留していたが、9日より、本格的な締切り作業を実施。
- ・15日23時に堤防締切盛土を完了。
(※21日に破堤地点の安全度を向上させるための鋼矢板の二重締切を完了)

■進捗状況

3K400、6K400 ともに完了。







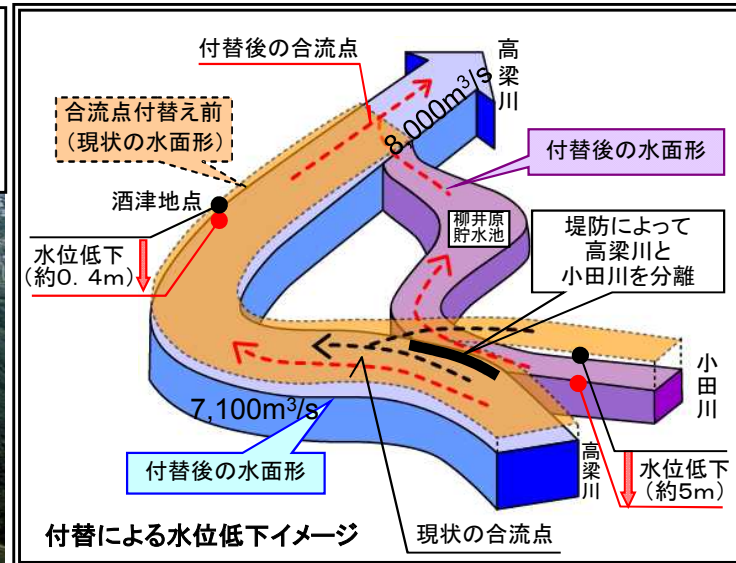
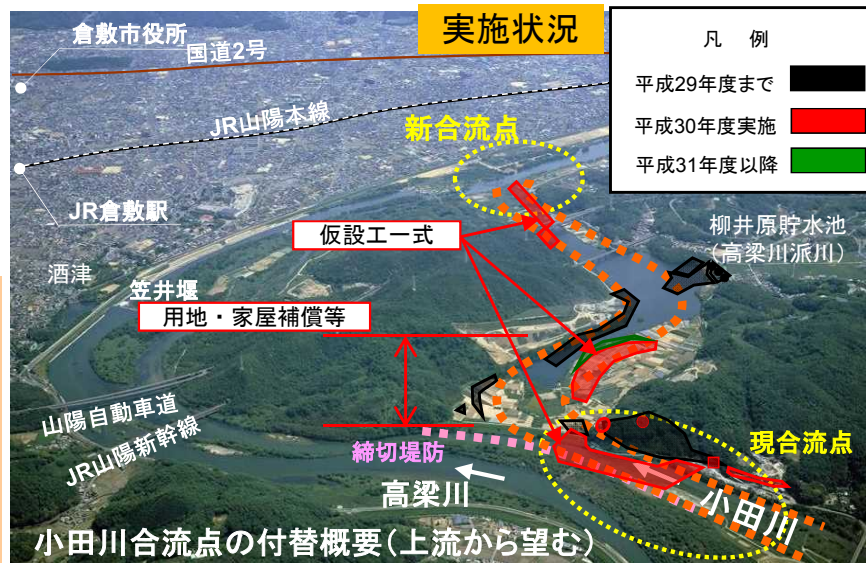
小田川合流点付け替え事業 一般改修事業(大規模)

たかはしがわ くらしき

おだがわ

高梁川は倉敷市街地を貫流しており、支川の小田川流域は市街への利便性が高いことからベッドタウンとして宅地開発が進んでいる。その一方で小田川は低平地を流下し高梁川に合流する河川のため、高梁川の水位の影響を大きく受け、昭和47年、昭和51年洪水では、はん濫により多くの被害が発生するなど、浸水被害の常襲地域となっている。

抜本的な治水対策として小田川と高梁川の合流点を4.6km下流へ付け替えることで、小田川の治水安全度の向上を図るとともに、高梁川のネック区間の流量を低下させるものである。



【全体計画】

事業内容: 築堤、掘削、補償等

全体事業費: 28,000百万円

※工事諸費を含む

事業期間: H26～H40

※工事着手(H31)より概ね10年で完成

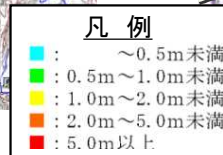
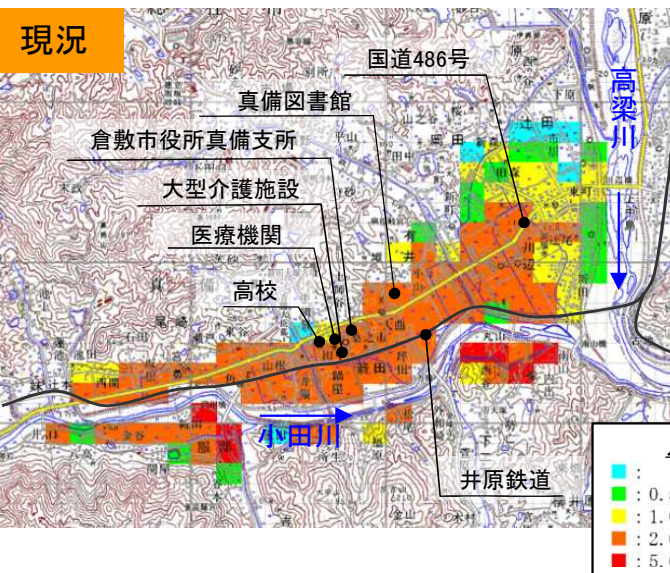
【平成30年度実施】

実施内容: 用地・家屋補償、埋蔵文化財調査、工事用道路等

事業費: 1,165百万円



戦後最大規模のS47.7洪水に対する事業効果



※小田川河床掘削含む

平成30年7月豪雨による土砂災害の発生状況

8月1日10時現在

土砂災害発生件数
(7月2日以降を集計)

(都道府県報告)

1道2府28県

1,515件

土石流等：466件

地すべり：50件

がけ崩れ：999件

【被害状況】

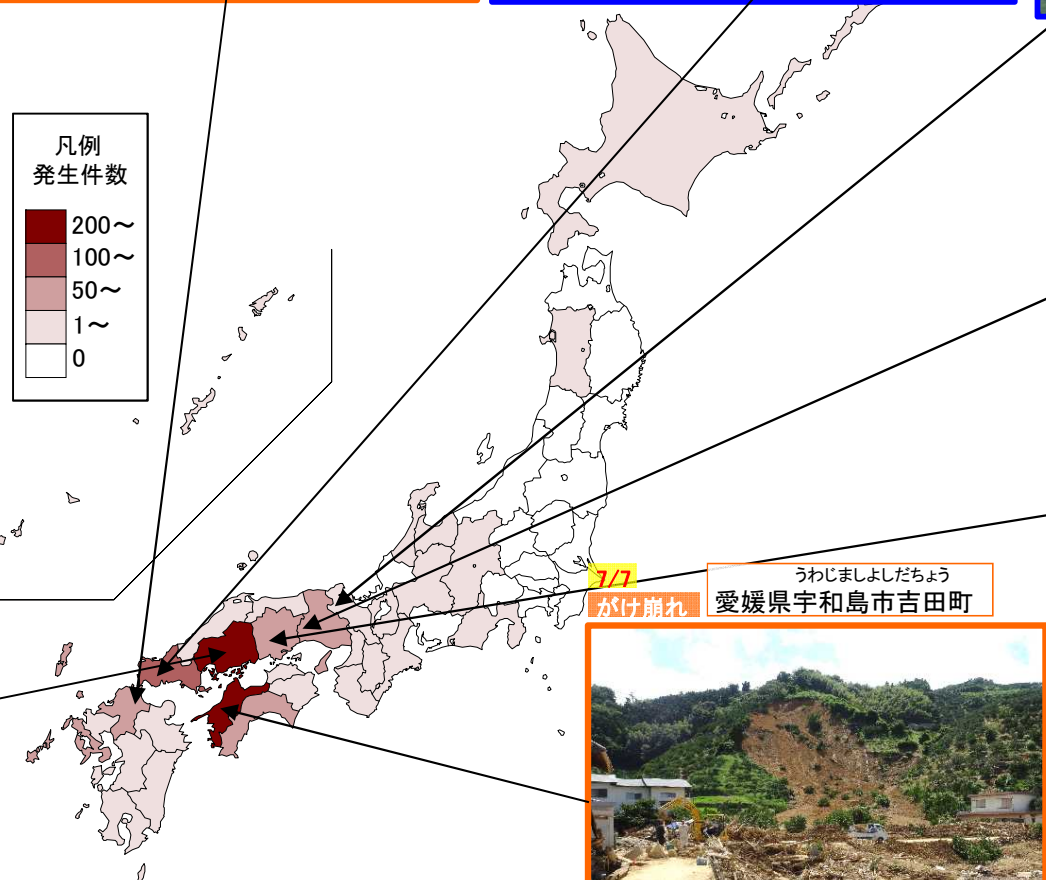
人的被害：死者 119名
負傷者 22名

人家被害：全壊 64戸
半壊 70戸
一部損壊 198戸

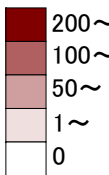
※近10年(H20～29)の平均土砂災害発生件数1,106件／年

※近10年(H20～29)の最大土砂災害発生件数1,514件／年

7/6 あきぐんくまのちょうかわすみ
土石流等 広島県安芸郡熊野町川角



凡例
発生件数



平成30年7月豪雨による広島県の土砂災害発生状況 8月1日10時現在

土砂災害発生件数 (7月2日以降を集計)

(広島県報告)

471件

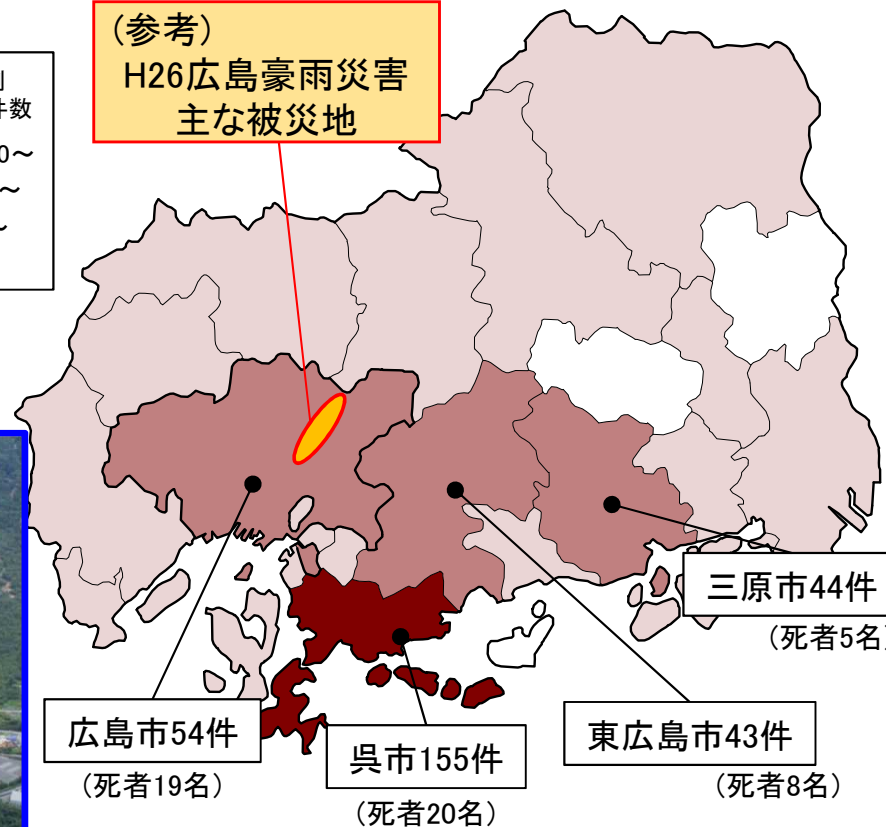
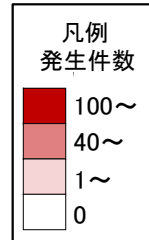
土石流等 : 315件
地すべり : 1件
がけ崩れ : 155件

【被害状況】

人的被害 : 死者 87名

広島県内の市町村別土砂災害発生状況

(参考)
H26広島豪雨災害
主な被災地



死者15名
※小屋浦地区で死者数計

あ き ぐん くまのちよう
砂防堰堤が土石流・流木を捕捉(広島県安芸郡熊野町)

たきがたにがわ

■ 広島県安芸郡熊野町の滝ヶ谷川において広島県の砂防堰堤が土石流・流木を捕捉し、下流の人家等を保全

堰堤の緒元
堤高=14.0m 堤長=66.0m
平成3年2月竣工

下流の人家を保全

砂防堰堤が土石流・流木を捕捉

土石流

土石流

7月15日 砂防ボランティア 広島県協会 提供

砂防堰堤が土石流・流木を捕捉

7月14日 アジア航測株式会社 撮影



TEC—FORCE（緊急災害対策派遣隊）を全国から派遣し、災害応急対応を支援

（**のべ9,345人・日**（7/3～） 日最大派遣数 607人（7/13））

○岡山県倉敷市真備町では24時間体制で緊急排水を実施し、約1,200haの浸水を3日で解消

○被災した公共土木施設の被災状況を早期に把握し、迅速な激甚災害の指定（7月24日閣議決定）に貢献

○台風第12号の接近に備え、甚大な土砂災害が発生した箇所等で二次災害防止対策を実施

○散水車や路面清掃車等を派遣し、防塵対策や給水支援を実施

○土砂災害等により市街地や道路・河川等に堆積した土砂や流木・がれき等の撤去を支援 等



全国の排水ポンプ車23台を集結し24時間で排水
【岡山県倉敷市真備町】



土砂災害箇所における被害状況調査
【広島県安芸区】



首長への調査結果報告と技術的助言
【高知県大豊町】



流路工整備により二次災害を防止
【広島市東区】



散水車による防塵対策
【岡山県倉敷市真備町】



生活用水の給水作業
【愛媛県宇和島市】

散水車による給水と散水支援活動



市街地の土砂等の撤去作業
【広島県坂町】